

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



古今見聞夜話天

經濟學部
研究室
80
565

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80



經濟學部
80
565

六人

松文茂不顯

有言白雪不積青松文茂不顯
矣吾鄉栖竹蕉堂雪窗更者生業鬻
烹茗性癖飲世塵好俳諧歌弄
月自適秋宵偶未訪吊所耆及俳
諧復今昔靜談暫時呻吟日今也
四海昇平鼓腹時浴恩澤暇平常

觸視每聽雅俗碎言筆記之有備
遺忘探懷出字紙數十頁半綴爲
卷名見聞夜話以需予言如子淺陋
詎知言固辭則史笑曰於戲如是
書豈非爲識者一時及故思散落
所淨書深秘篋裏俾他視老懶

後欲爲童蒙圃爐夜話一助而已
敢莫辭焉於是予不得已遂領之
史歸後皎月出雲崖度鵲鳴南
翔因而溫酒廢睡繞几披卷

神威武德赫々悚然可懼敬復
使於負實義勇忠烈孝信事

跡曾間自來朗矣其他至珍說
畢聞猥蕪滑蕪動感情實
筆硯功積所謂松茂之喻豈不虛
語哉且爲其人可知也看覽未終
則天龍梵鐘報未匹馬嘶市上
始覺曙倉卒叙其顛末換序

晨返之以爲大方家受見笑爾云

江府西驛小隱

癸巳秋日

朴齋醉撰



古今見聞夜話 自序

〇〇〇〇

東京帝國大學
經濟學部
研究室之印

博士曰人將_ニ全身家_ヲ而后可樂_ト宜成
 哉愚_ニ毋_レ俳諧梅守_ノ斧_ノ入門_ニ遊戯_ス又
 雖有_ニ年未_ク其空_ニ賢_ニ誠_ニ俳_者源_本學_子文
 教_知忠_孝而身家_ニ有_ニ餘力_{時者}可_レ雅_ニ
 遊事_{言_ス愚}為_ニ年_半傾_此一_路_者父_母身
 家_禍不_レ成_ヲ慮_受許_雖然_為不_レ智_短才
 亦_俳不_レ熟_暗書_籍故_ニ一_瓢庫_ヲ指_傍羣
 客_諸子_俳話_奇談_珍說_止螺_毫二_収

庫中_ニ夏_シ久_シ因_レ茲_レ反_レ古_ニ滿_ニ庫_ニ或_レ昔_ニ來_ニ友
人_ノ搜_ニ庫_ヲ撰_ニ數_ニ紙_ヲ以_テ之_ヲ編_ニ集_ニ進_ニ可_レ有_ニ夏_シ多
年_ノ雖_レ鳥_ノ迹_ヲ勞_ニ無_ニ功_ニ慮_ニ辭_ニ之_ヲ友_ノ子_ノ白_ニ誇_ニ已
非_レ慢_ニ自_ニ紙_ノ魚_ノ牙_ニ屠_ニ童_ノ子_ノ一_ニ笑_ニ可_レ備
几_ノ邊_ヲ不_レ太_ニ因_ニ友_ノ子_ノ意_ヲ不_レ拒_ニ恩_ニ中_ニ採
愚_ニ毫_ヲ豈_ニ識_ニ者_ノ賢_ノ士_ノ耳_目ノ_ヲ非_レ穢_ニ唯_ニ壁
面_ノ爲_ニ反_ニ古_ニ均_ニ羣_ノ子_ノ補_ニ屈_ニ而_ニ已_ニ亦_ニ貴_ニ名_ヲ
不_レ畏_ニ人_ノ令_ニ書_ノ者_ノ全_ニ善_ニ惡_ニ信_ニ邪_ノ愚_ノ子_ノ孫_ノ介_ノ之_ヲ
夏_ヲ慮_ニ止_ニ此_ニ編_ニ且_ニ匿_ニ姓_ヲ名_ヲ不_レ顯_ニ者_ノ有_ニ謂_ニ
處_ノ因_ニ及_ニ備_ニ忘_ニ號_ニ言_ニ今_ニ見_ニ聞_ニ夜_ニ話_ニ

于_レ皆_ニ天_ノ保_ニ四_ノ癸_ニ巳_ニ年_ノ秋_ノ九_ノ月_ノ編_ニ集_ニ稿_ニ成_ニ

東都四岍之西鄙

篤堂雪窗



古今見聞夜話



篤堂雪恩

編輯

○神君

大阪ノ傭役ニ御行馬外御巡見ノ節

大久保彦左衛門横田甚右衛門初鹿野傳右衛門

ナド御供也其時敵ヨリ鉄炮ヲ放事如シ雨ノ

因^{コレヨリ}茲初鹿野言上被致ケルハ敵兵ノ鉦子余リ

烈ク候間御巡見御見合可然哉旨言上ス

君上意ニ予ハ鉄炮ガ毎也ト仰アリシ夏淡庵子

ノ感狀記ニモ挙之ヲ往古ヨリ暴亂ノ代ヲ因

ノ感狀記ニモ

挙之ヲ

往古ヨリ

暴亂ノ代ヲ

因

御武徳ニ今平安シ万民土塗ノ苦ヲ忘ル夏偏ニ
御國恩ノ程奉尊敬可申也都而名將良將六
矢王不_レ届物也ト言リ矢王ニ命ヲ擲ノ將ハ縁テ
文武ニ暗政_レ夏_レ緩弛ニシテ義仲ノ亂恩ニ均シト
イハシ神君ノ御明徳ヲミヨ凡_レ將ノ及列ニ非
代々紛擾シ患苦ニ及ルヲ因御威光ニ泰平
ニサシメ給フ夏_レ亮_レ舜ノ世モ可耻也故ニ
御代々ノ御繁榮其御先格ノ御功ト可言足利
亦ハ北條ノ代連續ストモ万民ノ患苦御代等倫
ニ不均春日花ニ舞秋夜月ニ詠ハ偏ニ

神君ノ御德儀ニ可_レ因此國恩ヲシラスバ不
可有

御三代公御上洛_レ舘_レ根山中ニテ何者共不知
御乘物ヘ鉄炮ヲ放シタリ御守禦ノ面々草ヲ
分テ穿_レ鑿_レ三_レ雖_レ及ト退散シテ不知其時
上意ニ予乘輿ナレバ打損タラン馬ヲ可_レ引トノ曰
御供ノ諸士色ヲ變_レシ殘黨有テ變ヲ究_レ親_レ相_レ擊_レ千
ノ舘御乘馬ノ儀如何ニ候哉ノ旨ヲ言上ニ及ケル
可公完_レ余トシテ白ケルハ予奴僕ノ箇先ニ

被蒐尸ヲ道路ニ於穢ニ御先代ノ御耻辱具ハ
將軍ノ武威無之ニ似多ト御馬ニ被爲召因茲御
供ノ羣士往邊ニ眼ヲ配御尊體ヲ奉守禦上
洛被爲在トナ實ニ御勇銳ニ渡ラセ給フノ御武
德ト奉仰可申也信玄野田城ヲ取營ノ時足輕
ノ鉄炮ニ腮ヲ裂レ兩日ヲ過テ命終ルト言ル説
アリ御記録編年集成ニモ此儀無之尤正説ノ諸
書ニ不見的オソフクハ後評ノ浮説可成アル書ニ
信玄腫物ニテ落命スト云編年ニ唯病ニ死ト
アリ凡疔ト言ル物ニ哉勇悍ノ將ニ矢王不及
ト言リ酒井忠次生涯於戰場ニ太刀ヲ採事
七度敵兵襲蒐時ハ白眼ツクル敵兵惶テ不追
因茲鎗刀ヲ採ニ不及戰場ノ進退心ヤスシト本
田忠勝ハ夜話被致シ由以之ヲ忠次七度ノ太刀ト
後代美賞ス古今ノ武勇名譽言可爲

アル士楠公ニ問テ曰公ハ和漢ノ軍慮ニ超給フ以
誰ヲ師トシ給フ哉ト問尋ス正成答テ曰我允席
義經ヲ師トスト答給フ義經國ヲ治ルノ雖大業
不足ト武意謀策ハ本朝名譽ノ良將可爲

建保ノ頃和田義盛滅區ノ時三郎義秀後代ニ
勇名ヲ輝迹ヲ匿此時宋屋ガ辻ト言ル處ニテ武
田五郎信光ニ出合タリヨキ敵也數年殺吳ント以
鉄杖ヲ襲蒐信光ガ嫡男恵三郎信忠至年十
五歳父ガ前ニ立テ義秀ニワタリ合ントス義秀ノ
是ヲ見テ言ラク未生年幼弱ノ信忠父ニカレ
ルノ孝心且ハ武勇ノ程今我鉄杖ノ錆トスル豈
惜ム列ト感賞シ鉄杖ヲ腋挟馬ヲ乘遶武田
父子ヲ不撃濱邊ノ方へ行過ケルトナン義秀ノ
勇壯義信明士成ル豈後代ノ今モ兒童ニ至ル
迄其勇名ヲ知ル天下稀代ノ士ト可言

田安郷 御家臣何某アリ炮術ノ師タリアル時
塚ノ的損シケルヲ門人ノ士補理シテ持泰セリ
是ヲ塚ニ掛テ試ニ鉛子のヲ不拔因茲右段師
ニ告之ヲ則師ノ以鍛鍊ヲスルニ鉛子亦不拔師曰
筒ヲ向ル列不碎ト言物ナシ故ニ是變豈也ト彼
士三問尋シテ曰眼前ノ不思儀察ル列的板ニ謂コ
ソアラヌ穿鑿シ給ヒ可被泰ト座中ノ門人色ヲ
失フ因テ士ノ家ニ歸リ實否ヲ糾スニ右此士ノ父

朱書

八田沼家ニ仕ヘ御家操^{サツ}勲^{ボウ}ノ節浪入セリ未タ主
 家ニ勤仕セシ時台主老職ノ政事役被仰附其
 節年々自日光山御牘來着セリ今是ヲ穿鑿^{センサツ}
 スル列右日光 御神事ノ御牘^{フダ}也也全鄙生
 是ヲ不辨^{ワキマエス}雜具ノ中ニ交以有之的板^{マシ}ニ造り實否
 ヲ知テ其御爵^{グツ}アラン夏ヲ恐ルト顔色ヲ變^カシテ
 演^{エン}言^{ゴン}ス師ノ是ヲ聞テ其恐有夏ヲ思ヒ彼士俱
 ニ日光ヘ至リ 御神爵^{グツ}ノ程ヲ恐^{シヤ}謝^{マタヒ}セント云^{イハ}實
 ニ 御威光^{イキハツ}恐多夏共也ト師ノ金^{イデ}直^{チキ}語被致シ
 文化中ノ夏成シ

安徳帝^{アントク}ノ御祖母^{ミソボ}二位ノ尼父道相國ノ御臺^ミ列
 ニマシミケル余^{ヨリ}勇^{スベ}ニ過タル女姓也屋島ニ帝ヲ抱キ
 西海ノ浪ニ沉没^{センボツ}シ給フ事頼朝ノ帝ヲ恨ルトモ
 強^{シヤ}テ奉弒^{ラシ}哉亦三種ノ神寶ヲ失フ夏天下不忠
 ト可言神璽^{シンシ}御鏡^{ミカミ}八斤^{ハチン}岡太^{カク}郎^{ヲウ}經春^{ツネハル}自海中奉
 採^{トリ}上^{ウヘ}雖^{スモ}然^シリト寶釵^{ホウキ}ハナシ女姓ノ身ニテ勇ニ過タ
 ルハ朽木^{クキ}ノ如^ニシ節ノ

梶原平三景時^{カキハラヘイサミトキ}逆^{サカ}艦^{フネ}ノ論ニ夏ヨセ義經^{ヨシツネ}ヲ讒殺^{サンサツ}シ
 ケルハ後代ニ雖^{スモ}嘲^{カザリ}ヲ受^{ウケ}ト頼朝^{ヨリチヨウ}イカニ景時^{カミトキ}ノ讒^カヲ信^{シン}ジ

朱書

良策勇銳ノ義經ヲ苛慮セシ哉頼朝ノ義經ヲ
 惶ルニ非ズ以景時ヲ密謀シ給フハ義經アル時ハ天
 下ノ亂根万民ノ患成シ又ヲ知ルガユエ也義經武畧
 勇悍ノ雖將ト天下ヲ治ルノ大量ヲ不知媼ニシテ
 奢心アリ故ニ義經ヲ追責ストモ諫誠スル者ナシ
 頼朝景時ノ讒ニ因テ義經ヲ伐ハ古今ノ暗將ト可
 言諸大名頼朝ノ政務ヲ恨國亂止時不可有才畧
 膽畧智勇兼備ノ良將成ルガユエ鎌倉ノ鄙中
 一度都ト成テ國家治リ繁榮ス景時忠節後代
 兒童ノ口ニモ謗ヲウクルハ景時ノ真忠頼朝ノ謀
 策兩雄ノ心畧ニ有列凡畧不成爰ニ至テ義經ノ
 慢懦弱成ル爰ヲ可知也往々雖人氣ト於邪
 正ニ知之爰不可變

瀧口三郎經俊ト言者源本源家普代ノ勇臣
 テ有ケリ然ルニ度源家滅亡シテ後身ノ置所
 ナク平氏ノ糧ヲ喰大庭景親ニ屬シテ源家ニ
 背平家ニ匍匐シテ屢身家ヲ保ケル武心ニ至テ
 ハ多穢叛賊ノ徒ト可言然ル處頼朝龍ノ雲ヲ起
 ノ時ヲ得テ石橋山ニ白旄ヲ飄而启平家ヲ西

海二屠美名ヲ天下ニ震フル因茲生捕者罪ノ卑シ
二任種々有ケリ然ルニ右經俊主家ヘテ引ヒシ暴
惡難遁生捕ト成テ死罪可爲以旨ヲ土肥實平
ニ預ケ置ル處經俊ガ母ハ賴朝ノ乳母也名ヲ山
内ノ尾ト稱ジ京ニ居テ此由ヲ聞驚膽シ急錄倉
ヘ馳參リ子息經俊ノ命ヲ乞賴朝尾ヲ召給ヒ
願ノ趣不聞届ニ雖非ト經俊ノ重科是ヲ見ヨト
櫃ヨリ鎧一領取出シ給ヒ是ハ我源家再三時
石橋山ヘ出張ノ節ノ著具也經俊ガ射ケル矢二筋
迫如此ナリ篋ヨリ切テ列持ス鏃ニ經俊ノ銘是

明白ノ列也我天命ニ不尽運ニ早ヒ經俊ニ不害
今時至テ是ヲ見セシム晋代高恩ノ主家ヘテ
引夏天不忠ヲ不免給以我ヲ誅戮有列也ト憤
激シ給フ因茲尼御答ニモ不及恐入唯涕泣シテ
御前ヲ下リケル夫ヨリ賴朝土肥實平ヲ召給ヒ
經俊夏死罪可爲ノ處尼ノ歎察ルニ不敏ノ至リ
此度ノ儀ハ死科ヲ免遣可申也向後源家重代ハ
高恩ヲ不忘忠勒可致旨被仰渡ケル實平御答
ニ御大量ノ御仁慈愚臣ニ至ル迫難有旨御受ニ
及經俊ノ罪科ヲ免給フト云是等ノ夏ヲ論考

朱書

レバ頼朝ノ仁義大志成ル夏凡將ノ沙汰ニアフス
智畧雄道ノ良將可爲因テ頼朝ノ臣ヲ降服ス
ル事如シ子ノ太レバ前段ニ演列ノ義經ヲ損害セシ
夏一朝ノ謂不成ヲ可知也

寛永中天草峰起ノ節北條安房守彦被馳向
邸時ニ揆誅戮アリシ夏書ニ雖顯ト全ク僞言妄
説トヨシ當時二万石_{下總内 結城ヲ領ス}水野日向守彦御先代
蒙 上意ヲ一揆共悉誅伐被致夏御記録正
ケルトナン北條彦御名ハ正説ニ無之ト云

太ル貴家ノ姫君年六歳ニシテ死セル日限ヲ知リ
給ヒ未タ筆道ニ学不給シテ御祖父ノ飲酒ヲ
被歎諫書ヲ残シ辞世ノ發句ヲシ其日其時不
違如眠カ世ヲ太給フ偏ニ神佛ノ再來トモ可言
惜哉御辞世ノ句ヲ不聞是等正道ノ不思儀ト
可言

余カ家ノ縁續玉屋宗兵衛ハ油屋家業也アル年
ノ冬十二月二十四日隣家ノ酒肆若菜屋富五郎物置
場ヨリ出火シテ類焼ニ及ブ其節右宗兵衛妻菜

朱書

カヲ塲家裏へ走り出太下屋敷ノ藪垣ノ繩ヲ切
拂ヒ遁出テ町内自身番列亦ハ組合へ衆届ハ
火元ノ儀ハ隣家若菜屋富五郎方ニ候我等家業
油煉場モアレバ向後火元争ナドノ儀有之候テハ
迷惑ノ至リ且ハ組合衆へ御苦勞相掛候テハ如
何ニ候間此段爲念ノ御届申也火急ノ夏ニ候ハ
混雜ニ及ビ夫々ハ御届不仕候ニ付御聞置被下
可然御傳達頼入候ト後難ヲ思ヒ被届多ク女
姓ノ思慮男子モ不及列ト諸人笑談セリ是等
忝心得置テ可然夏成シ

東都谷中ト言凡列二三河屋何某ト言酒店アリ主
ハ没シテ壹人ノ幼兒有ルニ妻ナル者心剛ニシテ男
子モ耻ル斗リノ才器アル者也アル夜押込ノ惡徒只
白刃ヲ提テ家内ノ男女六人ヲ絡縛シ幼兒ヲ虜
ニシテ金ノ有列ヲ問責ス妻更ニ顛倒セス言リケ
ルハ各金丈持衆致サレバ外ニ子細可有共不
思其一子ヲ渡シ候ヘ金ノ有列ヲ申藏鍵ヲ貸
シ進スベシ女身代ノ事ニ候ハ金子少々ニテモ居
間ハ不置皆有金土藏ノ根太下ニ隠シ置リ先
小兒ヲ渡シ候ヘシト藏鍵ヲ遣シ小兒ヲ抱キ

取ケリ依之賊ハ金^{ネリ}込^{コメ}内ニ入テ金ノ有^ナ所ヲ求ム
一入ノ賊白^{ハク}刃^{バク}ヲ提テ藏ノ扉^ト前^{マヘ}ニ三テ内外ノ様子
ヲ窺^{ウカガフ}フ女^メ主^{ヌシ}白中藏ニモ金數多^{オホク}アリ右金残^{ノコ}シ
トテ何カセン各ニ進スヘシ持^テ參^{サン}致^シサレ候^{コト}ト鍵ヲ
屠^ホリ遣^リシ小兒ヲ抱^ナキ乳^チヲ受^{サツ}ケテ手枕^テシケル
彼賊鍵ヲ取テ後ノ藏ヘス^トム能^{ヨク}見^ミ透^スシ小兒ヲ
捨^{カキ}抱^イ外ニ出^デ火事ヨト喚^{ヨル}リ走^ハル依之近^{チニ}遠^{ハシ}ノ族^{ヤカラフ}皆
起出テ騷^{サウ}動^{ドウ}ス出^デ火トイトモ騷^{サウ}ク而已^{ニシテ}更^ニ不
知^ニ女主門戶^ニ三テ金^ハク出^デ火非^ニス夜賊也各^ハ方^ハ動^{ドウ}声^{セイ}
ニ驚^{キヤウ}怖^フシ可^キ走^ハ何卒^ニ唯^ニ大聲ヲ發^{ハツ}シ門戶ヲ固^{カタ}メ可^キ
給^キル我等ガ愚慮ノ謀策アリ此計ニ墜^ニナ^ハ夜賊
二人ハ可^キ生^{メイ}捕^トト言^ニリ女主門外ヘ走^ハル時場ニ酒置^ニ
場ノ穴藏^アアリ此格^カ子^シ蓋^{フク}ヲ跡^ハテ置^キリ天命^ニ尽^スル
處ニ哉如^ク案^{アン}女主ノ謀慮^ニ墜^ニテ四^シ賊^{ゾク}ノ内ニ入^ハ
ニ階^ニヨリ家根^ニ越^ノ二遁^ノシ^{カレ}公跡ノ残^{サシ}賊ハ穴藏ヘ落
ケリ依^レ之格^カ子^シ蓋^{フク}ヲ上ニ酒樽ヲ積^{ツミ}重^{カサ}テ出^デ事
ヲ禦^フク而^{シテ}公^ニハ訟^{ウツタ}ヘ御捕方願^{トリカガ}ノ上右三賊悉^{サシツク}御召^{コトシ}捕^メ
ニ相成^ニ盜^ニ取^リシ金子七百余金不^レ残^レ下^ニ置^キレ御吟
味^キ嚴^{シク}逃^ニ去^リシ二人ノ賊亡^ニ天網^ニ難^{カク}遁^ノ皆御誅^{チウ}戮^{リツ}ア
ラセラル夏御威光ノ程恭敬^{ケウケイ}セスバ不可^キ有^ナ且又女

朱書

主ノ才器男子モ不及處諸人笑賞セリ享和ノ事成シヨシ

東都四谷ニ火消入足庄之助ト言者アリシ此者朝父亂酒シ賭事ヲ好ミ懦弱放蕩成ル者一人母アリ惡行ニ不似合孝心也アル時母ノ言ハ其方家業ノ火消入ノ儀我常々心ニカケレリ如此老衰ニ及ヒテ其方身分ニ禍アル時ハ我ヲ誰カ可守ル外家業ヲナキニ非ズト諫諭セリ庄之助源孝入成カ故ニ母ノ諫止ヲ神佛ノ如ク尊ミ是ヨリ火消入足ヲ止ルニシテ發ス然ルニ右庄之助町内ニ己ガ替リ入足ヲ不入バ己カ身ヲ退ル難シ故ニ跡役ヲ捜シ求メ入足家業ヲ相止ル町役ノ者彼ガ剛ナルヲ惜ミ止メントシテ種々ニ言ハ共母ノ命也ト固辭ス然ルニ其翌年ノ春出火ノ節己カ跡役ノ人足火中ニ焦死ス天庄之助ノ孝道ヲ憐ミ給ヒ彼カ死ヲ退シ給フニヤ庄之助母ノ命ニ不肖死ヲ退レシ事ヲ慮リ是ヨリ惡行ヲ止マリイヨク孝養ヲ尽シシケルアル日人ノ家脇ニ立テ小用シケル時其家ニ真宗ノ法談ヲ群衆ノ族心耳ヲ深沉ニ聽聞アル庄之助風圖耳ニ止マリ屢耳ヲ

朱書

澄シケリ是哉彼カ宗門名譽ノ行者ト可成
 因トモ可言庄之助幸ヒニシテ右宗門ノ夏故是ヨ
 リ母子共念佛三昧ノ信者ト成ケリ宗門ニ奉
 公ノ忠ヲ尽シ法道麁畧ノ徒ニ法話シテ如來
 ノ本心ヲ觧シラシメ邪心ヲ善道ニ歸セシム事數人
 ニ及ブ洛東ノ本願寺焼亡ノ時知之ヲ已カ家根
 水ヲ洒ギケル是等ノ不思儀本願寺ニ聞ヘ庄之助
 ノ名譽トス本願寺焼失後御普請ノ節ニ至リ
 宗門ニ忠勤セシ事ナド庄之助一代ノ記アレハ是不止
 實ニ有難一孤ノ珍入ト可言

江戸深川木場ニ枝木間屋ノ何某名仕太吉トイハ
 者アリ心体忠節ニシテ能ク家業ヲ營ミ主家ヲ
 大切ニ仕ヘケル主人又太吉ガ廉直成ルヲ賞ジテ家
 業ノ事ハ太吉ニ任シ置リ文化寅年江戸大火ノ
 前年業道鍛鍊ノ切ニ哉諸枝木ヲ買入ル夏大
 火ノ如シ國々ノ仕切廣大ニシテ運送セリ依之同
 職ノ族太吉ガ思慮ナキヲ嘲ル然ルニ其翌年ノ
 春三月四日高名輪牛町ヨリ出火シテ南風烈シ
 シ塊ヲ卷猛火天ヲ焦シ一昼夜ニシテ千住追焼
 区ス東都四ノ火災ト可言此變ニ因テ諸枝木

ノ價高直ニシテ問屋仲間諸人患困ヲ不思シ
テ唯金銀ヲ貪ルニ均シ果ハ法外ニ及ヒ
御公儀ノ御法例ニ背ク夏後難ヲ不辨邪欲ノ
至リ尤大イ也然ルニ太吉ハ法ヲ守リ天命ヲ知ル
カ故ニ邪欲ノ群族ニ組セス平和ニ家業スル至
テ前年運送ノ材木不残賣散ス然ル處右邪
欲ノ者共 御上ノ御法ヲ犯セシ罪難退宰舎
又ハ手錠仰附ラル於太吉ニ元帳賣上帳ヲ以申
訳相立御科メ無之諸人難儀患苦ヲ辨へ神妙成
心得也ト於奉行所ニ御褒賞ニ預ル太吉が賣上
凡ニ拾七万金トイヘリ太吉ノ白右火災ニテ諸人ノ熱傷
ヲ不思欲ニフケリ御法ニ齟齬セル夏冥慮ヲ不知
ノ罪欲ト可言格外ノ夏セ共仕ノ高ニテ利合
過分也トイヨク業体正道廉直ヲ専ニス依
太吉が堪能大志成ル夏ヲ諸人知テ不賞ト言
事ナシ火災前年ニ此變ヲ知ルニハ不可有忠孝
ノ道ヲ守リ正路實意ニシテ家業ニ熟鍊セ
シカ故ニ天福ヲ下シ禍ヲ退ケ給フ也太吉生涯
人命ヲ救フ夏三度アル女子三歳ノ兒ヲ背負橋上
ニ戯レ居ニ背ノ掛紐外レ水流ヘ延ニ落溺ス此時

太吉通行セシガ衣類ノ傍水中ニ入テ幼兒ヲ救
又兀時ハ首縊ラントセシ者其實ヲ聞テ金子ヲ
アテテ命ヲ救フ又兀時春夜ニ主用有テ永代
橋ヲ過ル時年四十路余リ女橋手摺ヨリ身ヲ投
セントス太吉見捨ルニ不忍抱止メ命ヲ捨ルノ意ヲ
聞女答テ我伯父ノ渾夫ノ妻也夫重病ニテ今
夜用談アリ伯父ノ宿列ハ衆ジ危急ノ談合ス
トイトモ伯父不聞入故ニ我茅屋ハ歸リ病苦夫
ハ申聞ルニオイテハ落命ニ及ン夫ノ死ヲ見シヨリハ
自先死セント不覺ノ了簡御見各ニアツカリ耻
シク候ト涙泣ニテ語ル太吉白其元女子トイト
年五十路ニ近カラン理合ニ暗ク唯圖方ニ意迫シテ
重病ノ夫ヲ不思更尤トハ言難シ負操實儀ニ夫
ルト可言也其元ハ死テ世ノ患苦ナカルマシ夫ヲ誰
カ以業サン哉不了簡モ時ト諦ニヨルベシ定テ
用談トイトハ金子ナドノ入用ニ非ズヤ我今夜因有
テ其元ノ患歎ヲ聞金子ノ更ニヨラバ談合可有
間女答テ御明慮ノ如五金ナクンバ生死ノ損亡ナ
ラン更ヲ歎ク太吉白幸金子持居トリト五金ヲ
出シ女ニ与フ女ハ唯太吉ヲ佛神ノ如ク拜シ橋上ニ

伏テ謝シ太吉カ住居名前ヲ雖問ト不言病
者定テ待居^{マナヲラレ}シ早々歸宅アラレヨ^{タシ}衣^{ヒヤウシヤ}今晩ノ
夏ハ病者ニ不可語病ノ障^{サワリ}リ共成ナン唯伯父ヨリ
借用セシニ言置可申向後不^フ了^{リヤウケン}簡ヲ不可出下
勵^{ハシ}シ歸宿ス然ルニ其年ノ六月晦日佃島住吉
神ノ御後ニテ神祭ニ群衆ス太吉住吉ハ祭詣
シ歸ラントセシ時女子来テ袂ヲ扣ヘ右永代橋ニ
テ報謝シ給フ思入不成哉春月ノ朧影ニ御面
ヲ不^レ忘ト袂ヲ不放太吉廉直^{レン}大志ノ人故是ヲ
不^レ思イカニモ其夜一人ノ女ヲ板^{スシ}ヒシ夏アリト答フ
依^レ之貧女厚恩ヲ謝セン夏ヲ思ヒ芽舍^{ヤカ}更誘引
セント夫丸者モ来テ是非ト進ム太吉白聊^{ヤカ}ノ陰德
ニテ右俸礼謝ニ及ル、夏無用也渡シノ舟モ出レバ
心急セリト過^{スギ}ントス渙夫^{ヤヨフ}白我渙^{ヤヨ}船アレバ御場^{カキイタク}所
迄送り糸ラセント挨拶^{カキイタク}ク如クニシテ芽舍^{バウシヤ}二座シメ
而種々餐^{ケウ}應^{オウ}シ恩澤^{オンタク}ノ程ヲ謝ス渙夫^{ヤヨフ}病腦^{ヒヤウノウ}ヲ
遁^{ヘイシン}レ平身ノ後妻此物語ヲシ佛神ノ冥助ナラン
事ト今日唯今迄慮^{オモヒ}リ居候列也ト落^ラ落^ル涙^{ナミダ}シテ
頓謝^{トシヤ}ス話儀^{ワキ}時ウルノ節渡舟水半ニ出シニイカ
ナル夏ニヤ霞渡^{シヅカヘリ}リ眼前二十六人溺死ス太吉貧夫^{ヒシ}夫^フハ

朱書

害事ナクバ溺死スル者ノ數ヲ不可退此陰徳
二因テ命ヲ全ウセシ夏不害ノ家ニ餘慶ナキカ
如シ余カ友子志丈ト言者太吉ト厚文成シ此
故ヲ以直話セシヲ記シハルニコソ

古老白雷鳴ノ時我自脉ヲ採ルベシ絶脉ノ時
ハ早ク居列ヲ替ベシ極メテ落雷セリ天火ノ勢ニ
心氣押レテ絶脉スト云俗説ニ火災不遭家
ノ壁柱アルハ糠味噌温氣アリト聞リ土俗ノ説モ
當理アラバ謾不可古老ノ教又然也

太八儒家白東都ハ神田ト玉川ノ流水ヲ以數
万人ニ命ヲ保ツ夏全ク御公儀ノ御慈惠

ニヨリ其冥慮ヲ知ラズバ不可有年々御普
請ノ御費ヲ掛サセテ數人ヲ救ヒ給ハル事ヲ
慮リ御厚恩ヲ知リ水ヲ麓畧不可有依
之水道ノ枅形眼ニカタル處ノ地蓋ノ上ヲ足下ニ
カケ不可ノヨシ教傳セラレシ御召ノ御用水ハ
雖無之ト御上水也是ニ心用スル者ハ足病ナク象
内安全可爲ト語ラレシ余此教受ニ因テ天
保ノ今年迄十八年裡心附地蓋ノ上ヲ不踏四谷

朱書

通ヨリ麴^{マカ}粿^コノ辺^ヘ地^チ蓋^{フス}ノ株^ス形^{カタ}多^シシ諸^{シヨ}人^ニヲ見^ミルニ
是^{コト}ニ心得^{コト}アル者^{モノ}絶^{ツク}テナシ此^{コト}教^{イハ}受^ケヲ信^シセズンバ
不可^カ有^ル

將軍家。御鷹野^{タカノ}ナドノ節^{フシ}御側^{ワタシ}衆^{シヨ}御影^{ミカゲ}ヲ足^{タラ}
下^シニ不^レ掛^レ搭^レ心^{ココロ}附^{ツキ}ル事^{コト}ノヨシ^ニ在^ア御免^{ミクシ}ハ有^ル夏^{ナツ}ナカラ
御用^{ミヨウ}向^{ムク}ニ因^{ユヰ}テアヤチ御影^{ミカゲ}ヲ踏^{フミ}時^{トキ}ハ蒙^{モウ}御罰^{ミバツ}ヲ
足^{タラ}腦^{ノウ}シ又^{マタ}ハ怪^ケ我^ガアリト太^タル御近^{ミヅキ}臣^{シノ}士^シ余^ヨニ直^{ジキ}話^ワ
致^シサレシ御威^{ミカ}光^{アウ}ノ程^{ハジ}恐^{コソ}多^シ

原ノ白隱^{ハクイン}ト言^{イハ}シハ尊^{タカ}キ禪^{ゼン}智^チ識^{シキ}ニテアリシアル年^{トシ}
身子^{シニ}ヲ連^{ツキ}テ諸國^{シヨクニクニ}巡^メ歴^{レキ}シ給^{タマフ}フ時^{トキ}太^タル列^{レツ}ノ泥^デ淖^ノ
ノ臥^{フシ}ヲ過^{ヨギ}ルニ人^{ヒト}ノ笑^{エウ}女^メニ行^{ユク}合^{アヒ}リ道^{ミチ}挾^{セツ}フシテ一路^{イツロ}
ナリ外^{サヘ}へ避^{サゲ}ルノ所^{トコロ}非^アズ依^ヨ之^ノ白隱^{ハクイン}ツト寄^{ヨリ}テ女^メヲ抱^エキ
體^{タミ}ヲカハシ後^{ノチ}ノ方^{カタ}ヘマワシ身子^{シニ}僧^{ソウ}ニモ斯^{カク}セヨト言^{イハ}
テ其^{ソノ}列^{レツ}ヲ過^{ヨギ}ラレシ歸^キ寺^ジノ后^{ノチ}夜^ヤ話^ワノ節^{フシ}彼^カ身子^{シニ}
僧^{ソウ}師^シニ問^トテ曰^{イハレ}ク年^{トシ}泥^デ淖^ノノ臥^{フシ}ニテ笑^{エウ}女^メヲ抱^エキ給^{タマフ}
フ夏^{ナツ}アリタトハ避^{サゲ}ルノ道^{ミチ}ナシトテモ女^メニ三^{サン}衣^エヲ織^{オリ}
ス謂^{イハレ}不可^カ有^ル宗門^{シヨウモン}心得^{コト}多^シ伺^{ウカヒ}置^キ候^{コト}問^ト尋^{ゲン}セリ
白隱^{ハクイン}答^{コタヘ}テ曰^{イハレ}ク左^サ様^{サマ}ノ夏^{ナツ}モ有^ルシ哉^{ナニ}予^{ボク}ハ忘^{ワスレ}肺^{ハク}シヨ

朱書

其方ハ未タ女ヲ抱ヘ居レリヤト答給フ依之身ヲ
 僧言ヲ不返師ノ悟道教導セハ是也ト暗夜
 二月光ヲ得シニ均シク禪悟入り一泓ノ智識ト
 シ成ケル白隠ノ名譽タマ々知ル人アリ書ハ唐
 棲ヲヨクシ禪道廣大ノ智識也寛政中宗門
 ノ名譽可レ爲ル

神君 駿府御在城ノ節御鷹野先ヨリシテ

御不例ニ渡ラセ給ヒ日々御病腦重ラセ江城

將軍家ニモ駿府ハ入御アリ天下ノ貴賤掌中ニ行

握スイヨク御大切ノ節御側衆何某ヲ召セラレ

上意ニ寶藏ニ秘メ置ル所ノ三池傳太カ作ノ腰刀

持參可致ヒ仰出サル依之御刀番ヨリ奉敬備

神君上意ニ 死罪ノ者アラバ鉋シ可參旨

上意ニ因テ御刀携ヘ御玄關迫進シ河御返

シニテ御病床迄ニ召レ若シ死科ノ者於無之ニ

鉋ニ及トノ 上意也奉衆ノ旨御請ヲ申上右

役筋へ 上意ノ趣ヲ以申附ラル則死科難退

罪惡ノ者有テニツ胴鋪腕ノ鉋シ相濟右見分

ノ上御刀ヲ御前ヘサン上ケル

神君御病床

ニテ鞠ヲ拂ヒ給ヒ尊讒ノ上御枕元サシ置セ給
フ其日乍恐御他界也依之四海ノ貴賤世々床暗
ノ思ヒシ鳥獸草木ニ至ル迄愁ノ聲ヲ發シ色
ヲ現ス御遺命ニ因テ今日光山ニ御宮ヲ奉遷
東照大權現ト奉尊敬然ルニ右御腰刀御鉞ノ
儀イカナル御趣意ニ哉ト乍恐奉愚考ニ治二居テ
亂ヲ不忘ノ台語ヲ今シ給ヒ武門榮久ノ後ヲ量リ
給フ御遺志成ランカ且御鉞ノ薙死罪難退者
於無ニ鉞ニ不及トノ上意是又御仁慈ノ至ル
所ト可言是等ヲ以後代ノ禁誡トシ給フニヤ

御神慮ノ御大量ハ可知謂ナシ雖然ト洛陽ノ
開除ガ筆記ニ是ヲ不舉尤恐多キ事ヲ知テ豫
書セシ物カ難量リ都而國恩ヲ身一ト可思也
名トハ軍書軍談ヲ見聞ストモ關爭亂戰ヲ每
謀畧勇壯ヲ譽テ心耳觀目ヲ歡ムルハ治二居
慕亂ヲ每ミ心ニ太奮発ノ氣ヲ生シ亂國ノ代ノ
患歎ヲ不レ思ノ國賊ニ均シ俳士京人ノ句ニ歌書ヨ
リモ軍書ニ悲シ餘斯ノ山是ヲ見ヨ亂ヲ悲シミ
治ヲ歡ブ偏ニ國恩ノ大イ成ルヲ知ルガ故也日本開
闢今ノ世ノ靜謐ハ神君ノ御武德ニ因テナリ

朱書

此冥慮ヲミラズンバ蝦夷ノ隈ハ不知韃靼ノ糧ヲ
喰ヒ日本神國ノ地ヲ踏不可

文化中

將軍家吹上ニオイテ堅物射藝

上覽アラセラル御筈本ノ内ニテ弓術者十八人御
撰ニ成ル的ノ堅物鉄板也長サ三尺厚サ二寸八分
十五人ハ半ニシテ不抜三士ハ鉄板裏ヘ三分五分抜タ
リ依之弓術ノ甲乙ナク一統御時服頂戴アリ右鉄
板スル三士ハ列段神妙成ル御言ノ御褒美アリ
ケルトナン雖治世ト眼ヲ驚シヌル事於御家ニ射
藝ニ不限武術膽煉者充滿セル夏押テ可知ナリ
是全ク御威光ノ溢漲カ故也

御筈本柴山七九郎殿

將軍家御濱御成席

召出サレ空中ノ鳶ヲ射ベキヨシ

蒙上意ヲ奉

衆ノ御請ニ及ビ矢ニ筋ヲ携ヘ馬上御免ニテ屢

虚空ヲ窺ヒ猶豫ケリ依之

上意再度ニ及

セ給ヒ御氣色ヲ損セントセシ時弦音耳ヲ犯シ切

テ放ス鳶ニ羽ヲ以射落シ

上覽ニ備フ御褒

賞アラセラル御供群士又同音ニ賞ス之ヲ而

上意ニ其方猶豫過タルハイカニト御尋アリ御登
鳶二羽ヲ射落シ候ハ誰人モナス藝ニ候二羽ヲ射テ
上覽ニ備ント鳶二羽カ間ノ數量ヲ慮リ再度
ノ御上意ヲ蒙リ奉恐入ノ旨ヲ申上ラル

君殊ノ外御感賞ニテ御褒美頂戴アリ天下ニ美
名ヲ残ス於武門御家後代ノ譽ト可言後妄
評ニ鳶ヲ射損シタラニオイテ八柴山武門ノ名汚命
ヲ棄ズハ不可有危キ更御撰ニ成リケル物ト評セ
リ是僻言也其物人 上意アル時ハ御威光ニ因テ
仕損ル事ナシ又損ル者六 上意不可有於仕

損ルニ家命ノ亡矢ニ至ラン 御上ノ御仁慈ニオイ

テ右様御撰ニ成ル更其危ヲシロシ召サラン哉
理外ノ後評履僕ノ沙汰ナラン是ヲ仕損ル者ハ
弓箭八幡ノ見棄給フ御罰人者也於屋嶋與ニ
カ弓術後代ノ雖名譽ト義經ノ命也天下ノ將
軍ニ非ズ 御當家ノ御威光ニ至ラン哉七九
郎殿又與一カ弓術ニ資ラン哉武術鍛鍊聖
於治世ニ匿ルトイトモ往ヨリ拔君也太平記又
盛衰記ノ台書文畧ハ美賞スレ共元龜天正ノ御
記録ニヨラバ取ルニ不足柴山ノ名譽ハ池田輝政ノ

朱書

臣伊庭總兵衛加賀ノ臣吉田大藏東鑑ニ載ル所ノ上野ノ住人十郎朝村ニモ不可賓ノ名譽言後代家ノ規模スルベシ

台徳院殿増上寺御廟所御二重塙ニ歿死シテカクレリ御掃除役ノ者是ヲ訴ヘケリ掛リ役僧見分ノ上方丈へ伺定メニ取捨可申旨ニ因テ人歩ノ者茲ニ包品川ノ海底へ沉ム重キ夏牛馬ノ如シ右ノ惡虫御山内イカ丸刈ニ極メ得シ哉又ハ唯死セル事不思儀ト可也太人ノ曰是全ク

台徳院公ノ御退治ニヨラン物力具ハ御山内ノ佛神ノ御罰ニテ御廟處ノ穢ヲ除給フ良疑不可有語ラレシ此考話尤善於御勇悍ニ尤モ可有夏ヲシル殿下秀吉公大阪御城内ニテ神君ヲ御饗應ノ節二代公ニモ御席ニ進セ給フ御欄類ニ御両家ノ御近臣皆武勇嚴ナル羣士恭敬シテ伺公ス然ルニ殿下へ朝鮮ヨリ獻ズ虎ヲ食ヲ与ヘントシテ鉄篋ノ刃戸ヲ建損ジ虎ヲ放シケルカリノ役人驚膽シテ掙押ヘントスルニ猛獸故手ニ不乗與殿御饗應ノ御席御庭先へ走り入ル

朱書

依之御城内騷動スル夏大方不成然ルニ彼猛虎ハ
 籠中ニ糾明セシ事其猛勢烈風ノ如ク殿下ノ眼
 カケ牙ヲ鳴シ爪ヲ研テ飛蒐ントス此時
 二代公ニ御末席ニ御着座アラセラル列猛虎御
 席へ走り入ラントセシニ 二代公御短劔ニ御手
 ヲ副ラレ猛虎ヲ白眼給ヘバ耳ヲスボメ尾ヲ卷テ
 依之役掛リノ者道具ヲ以擒ニシ遂ヘ入ケル清正
 ヲ始伺公ノ勇臣掙押ヘ可申ノ間ナキ危急トイ
 リ是ヲ慮レバ御靈德ノ御威光ニヨラン且御
 勇悍ノ程ヲ可思

何處ノ寺院ニテ哉有ケン目宗ノ堂舎清正神儀ノ
 木像ヲ安置セリ數年ニ及ヒ古ビケルヲ羣鼠來
 テ耳鼻ヲ啄ム毎朝茶ヲ備ヘケル房子ノ小坊主
 イカナレバ木像ニモセヨ勇士ノ神像ヲ畜類ノタメニ面
 体ヲ損啄セラル哉無雙ノ勇士トイトモ木偶ニ
 テハ其甲斐ナキ物也ト嘲哂ス然ルニ其羽三朝又
 茶ヲ呈備セント堂中ヲノゾミ見レバ神像大鼠
 ヲ鎗ニ貫キ兒僧ノ嘲哂ヲ誠メ給フトカヤ雜末
 世ト勇士ノ心魂止ル處神通ト可言清正神儀法
 華勸請ハ七字ノ御旗并領ノ謂ナランカ

朱書

殿下秀吉公朝鮮ヲ伐ノ時清正行長ヲシテ總大
 將ニ召ル々肥前名護屋ヲ以殿下ノ御本陣タリ
 異國へ渡海ノ兵十六万騎數百船蒼海ヲ埋允
 か如シ釜山浦へ衆着テ漸時ニ王城ノ都ヲ伐
 國王ヲ擒ニス清正我以勇臣ヲ王城ニ勒番ヲスユ
 ル右麓畧ナキ夏ヲ制シ帝王ヲ敬スル事仁慈又
 嚴成ケル依之帝王國亂ノ不徳ヲ歎万民塗炭ノ苦
 ヲ悲シム帝王イマタ幼兒ニシテ清正ノ勇儀仁惠
 ヲ慕ヒ父ノ如ク敬清正又雖台命トハ無罪ノ國ヲ
 臣責スル夏武心正直ノ謂ニ不非ヲ慮リテや國ハ
 敗ルトイヘトモ帝王ニ仁惠ヲナス夏又子ノ如シ清正
 ノ正直臣等ノ亂法狼藉ヲ制シ商家ノ賤賈
 ヲ貪リ百姓ノ米穀ヲ盜喰フノ邪欲剝削ヲ
 ハ嚴ニセシ夏君ノ耻辱辱國ノ名汚ナリト不直ヲ糾
 ス事明々タリ然ルニ制誠ヲ犯シ民屋ニ入テ亂
 虐ス依之軍例ヲ敗ルノ大罪ニ因テ生捕ケル異
 國人ノ於眼前ニ清正自以長刀ヲ賊臣十八人か
 首ヲ刎ラレ異國ノ兵等清正ノ誠直ヲ感シ勇
 銳ヲ驚膽ス此明敏ニナクンバ殿下數万ノ帥ヲ預
 ケ不可實ニヤ本朝中興ノ武畧雄道ノ明士可

朱書

爲軍例ヲ侵ハ其罪大ニ成ル夏尤嚴也楠公
 小車梅新三郎が軍中ノ法誠ヲ侵シテ罪ニ自
 カニ斬テ諸士ニ制禁ヲ示ス以テ清正ノ誠武
 ヲミル異國七ヶ年在陣其艱難奉テ不可算
 歸朝ノ時帝王悲歎シテ別離ヲ慕フ万民又如
 此國ヲ責虐セラレ寵臣ノ損亡ヲ不顧清正ヲ
 慕フハ愚ニ似多レ共其誠直仁慈ヲ慮ルカ故也
 帥ヲ返ス時黒田三花小西等ノ退口残兵來テ
 雖難儀ニ及ト清正ヲ妨ルノ兵ナシ隊々勇全ト
 シテ歸朝ス清正以勇セズ仁ト德ニ治ル夏如此

細川侯御領肥後ノ隈本ハ源本清正ノ御居城也
 神靈ノ思儀有テ御當代モ猶其古例ヲ恭敬シ
 給フヨシヲ聞リ肥後ヲ領シ國号ヲ遠慮シ給フ夏
 神靈ヲ敬シ尊信ニ及セラル事尤嚴也故ハ御先
 代古例ヲ侵シ肥後守ト号セラル尤 公儀ノ御免
 許ニヨラスバ不可成然ルニ亂心シテ自殺シ給フ夫
 ヨリ神靈ノ崇リ成ラント 御三代が間越中守号
 セラル然ル處又肥後守ト号セラレ夏ヲ母給依之
 旧家ノ重臣先悔ヲ説テ諫誠雖及ト勇慢ニシテ
 諫士ヲ詈リ我自國ヲ治ルハ守禦職也從 上

朱書

御免許於有ニ何ノ崇リカアラン先代ノ枉死ハ強テ
神怒ノ沙汰ニ不可有神ハ非例ヲ不受人ノ依敬
ニ威ヲ増ト不言哉家ノ聖士爲重臣土俗ノ説ヲ取
用ル事歎子トヤイハシ未タ我ヲ辱劬ノ兒童ト
思フ哉ト憤嘆シ給フ依之重臣再諫ヲ入ル事
不能唯神變アラン夏ヲ歎ク以之御家只御代
國号ノ任ヲ付屬シ給フ然ルニ不祥八月十五日
殿中於用場ニ板倉佐渡守分家ヲ恨ル夏有テ
御紋九耀ヲ見遣ヘ肥後守彦ヲ殺害ス是以今
神靈ノ崇リ成夏ヲシテ御代々肥後守ト
号越中守也誠直ノ清正國号ヲ惜ミ後代神怒シ
テ崇リ給フノ謂解シ難シ神慮ノ程ハ凡俗カ可和
ノ道理曾而ナシ隈本御城中ニ神靈ノ御間トテ
領主モ入ル夏不能列アリト御家ノ浪士竊ニ語リ
シ近世於御領國ニ清正神儀ノ靈徳有夏ヲ知
ラ大社ヲ造營シ尊敬スル夏尤嚴也ト云

甲越關戰ニ及ブ事村上義清謙信ニ歎ク故
也謙信ノ義戰川中島ニテ越列ノ兵甲信ニ
出張シテ兩國ヲ取焚宮ム依之諸品ノ運送道

路ニ敵兵兇満シテ國ハ入ル良不能其時ニ兵
糧不食負トイヘド塩ナシ國民是ヲ悲シム謙信此
患困ヲ聞テ甲城ヘ以使者ヲ申入ルハ御自國
推參致シ鬪争ニ及ブ良武門ノ意地無余俄
列ニ候然ニ我帥ノ兵等塩運送ノ道路ヲ閉テ
御自國ニ塩ナク万民悲之良ヲ聞リ賤モ謙信
以塩不戰以軍慮鬪也依之我師兵等運送
ノ道路ヲ開キ候ノ間御勝手仕セ塩運送可然
猶又我營ヨリ妨ケ矢一筋ニテモ向ル族アラバ
謙信八百萬神ノ衆御罰ヲシト申送ラレケ
ル依之信玄越列ノ堅儀ヲ賞シ使士ヲ厚ク饗
シ謝儀シテ歸サル々謙信運送道路ノ妨ナラ
カラン良ヲ制ス甲兵越列ノ義將成ル良ヲ美賞
シテ此鬪争於味方損亡アラシ事ヲ慮ルダシ
テ川中島大戰ニ謙信ノ鎗場ハ踏込地ヲ侵ス
ハ信玄ノ勇也山本小山田ノ勇臣戰死ニ及兵ノ損
亡スル良ハ謙信ノ勇也信玄越列ノ地ヲ侵スモ
兵ノ戰亡ニ及テハ七分ノ所負也儀アル者ハ信アリ
謙信一代不孝非儀ナシ依ニ
神君ト平和ヲ
ル良厚シ
神君又謙信ノ信儀ヲ御心譽シ給

朱書

フトイヘリ於川中嶋ニ謙信甲兵ヲ割信玄統
本へ斬込牀几前ノ幕棒ヲ伐折ノ時信玄ノ近
士火筒向ルニ及テ謙信奮奮喫シ込刀ヲ火筒ヲ
半ヨリ伐テ落シ余ル太刀近士ヲ氏ノ如ク割付
ル信玄數功ノ良將雖爲ト牀几ニ不懲心更生
涯唯此一戰也ト謙信ノ猛勇ヲ感賞ス都而良
將名士ノスル處後代ノ龜鑑可爲

一説ニ曰謙信ノ陣刀小豆長光也トイハル又諸書ニアリ正説ノ
筆記ニ小豆長光ノ謂ナシ以陣刀ヲスト而已又一説ニハオソク
金道ナラントアリ是又爲淳説ニ信用シ難シ是等ノ齟齬
舉テ等ニ難シ右ノ儀戰ハ諸人雖知之ト筆序ノ因ニ奉之
謙信ノ伐折シ火筒何人ナラ哉被父領八幡ノ社頭奉納ス強
叙ノ各卷ヨリ不可將ノ眞勇叙ニ此列ガ難知

神君 大坂ヲ御取利ノ節 紀伊頼宣卿御年

十四歳ニテ御初陣也 神君御喜悅不斜然ニ

御先鋒ノ御願雖有ト御免許ナシ依之御心中臆

臆トシテ御勇勢ナクワラセ給フ處大坂御手合セ

ノ争戦ニ御取蒐リニ及ベシス 神君茶臼山ヲ

以御本陣ニ定メサセ給フ其節 纒武者二騎押並

テ 頼宣卿ノ御陣へ衆附從茶臼山ノ御使山

上彌四郎内藤長助也イカナレバ御陣ヲ進マセ不

給哉御遲參ノ趣 上ノ意也ト言捨馬ヲ返シヌ

頼宣卿 驚カセ給ヒ邸刻御陣ヲ操出シタリ

御本陣ノ山下ニ至リ下馬ニ及バセ安藤帶刀直次
頼宜卿ノ御手ヲ採リ 神君ノ御牀几前ニ至リ
御勝利ノ御賀ヲ演達シ給フ其時

神君上意ニイカオバ遲參ナル哉手合ノ戦功夫
々ニアリ其方ノ遲時予以口惜シト曰ヒケル

頼宜卿御答ニ蒙御不審ヲ奉恐候當面表陣割
御定ノ節下若手先登ノ御願致候得共幼弱ト

思召候哉御免許無之因テ思ヒ込候心勇々ケ

右ニ付遲參致候勿躰ナクモ尊慮ノ程奉恨候ト

落涙ニ及バセ給フ

神君御言モナクオハシケル

ノ列松平右衛門太夫正綱御諫申候ハ今日御手ニ
合セラレズ候速御歎ナサレマシク候未タ御幼少ニワタ

ラセ給ハ後戦ニ御軍功可然ル旨ヲ申上ケレバ

頼宜卿右衛門正綱進ミヨラセ給ヒ其方不聞ヘ夏

ヲ申者哉我十四歳ノ今月今日生涯ニ又ト可有之

哉若年ト謾リ今ノ放言小兒シマシハ聞入ヌゾト

憤色シテ曰フ正綱恐入テ曰蛇ハ爲一寸ニ其器ヲ

知リ虎ハ爲生ルヨリ南山谷ヲ越ル宜成哉

君ノ御秘藏アラセラル事々ヲ觀ハ親也ト嗟嘆

セシトアリ此時

神君ノ上意ニ雖幼若ト予ガ

朱書

也唯今ノ勇言ハ今日ノ鎗ナルゾト仰ラレシ依之諸
武士皆 頼宣卿ノ御戈器御健盛成ヲ敬ヒ允
ト云云萬治元年戌七月二十四日紀伊家臣加納
五郎左衛門直信布施佐五右衛門重昭西士ノ留
書ニ此御名譽ヲ奉ルト云

右同時ニ神君上意ニ四半ノ指物折掛ニ紋付ル六
上ノ方太紋上リタルハ格好ヨシ我白丸ノ四半モ白丸
ヲ上テ附ベキ旨 上意御差圖也出來シテ浅
間ノ社ニテ四半ヲ張セ見給フニ白丸ノ朱四半モ上
ヘ上リタルニ因テ御紋引立殊外美々鋪ヨシ仰
有シトナン是等ニ御眼ヲ止メサセ給フハ偏ニ戰場
御老功ノ御鍛鍊ニヨルベシ此時 頼宣卿御馬
印ハ 神君思召ニ因テ柴田勝家カ印適美事也
ト金御幣ノ御馬印ヲ進セラル御簀ハ白ニ黒
御紋付タルヲ七本御幕ハ中黒也七本ノ御簀ハ
二代公ト御同様ナリ 神君勝家カ馬印ヲ御取
用アラセラル、良只矢ナルニテハ不可有武門名譽
ノ將ニタクンバ 頼宣卿ノ御馬印ハ不可成爰ニ
至テ勝家ノ勇畧又凡將不成ヲシル勝家闕亡

朱書

後迫モ以是等ヲ武門ノ名譽言トイハシ

尾列家ハ頭黒ニ白葵ノ丸付タル御焼五本御纏白キ御紋付ル朱ノ大罽也金ノ御馬印ニ引ノ御幕ナリ

近世東都番甲二塙檢校ト言ル國學者アリテ諸

家へ召レ耳目驚セリ是人ノミル可也本朝盲人ノ

學者アル豈不珍シ儒學ニヨラス諸藝ニ通達ノ

盲人多シ神君關ヶ原御一戰ノ節大谷刑部

義高石田三成ノ叛逆ニ助カシ榮配ヲアヅカル是

異病ニ因テ盲人也神君諸陣へ御差圖アリケ

ル歟敗義高一人ニアリ彼ガ堅陣ヲ可敗

ト上意アリシヨシ是金ノ義高ノ勝レル可

アルヲ可知也神君ノ御目當ニ成ル豈萬代武

門ノ可爲譽國學ヲトノ賢才及ブ處ニ非ズ日本

開闢盲人名譽ニ因テハ大谷義高ヨシテ最

一トス後代ノ笑談可爲

天保三々十二月麹町年甲ヨリ出火シテ近邊

焼亡ス北風烈シク櫻田ノ方へ火ウツラントス其

時明石侯ヲ始列々ノ居屋敷焼上リ火勢強

井伊侯御屋鋪危カリシ時御通用門ノ御

朱書

長家ノ屋根ニ諸家ノ火消雖是ヲ防ト火ノ
粉御屋敷内へ降ル夏如雨ノ故ニ御屋敷御
焼區トミヘシ時壹丈余モアラント覺シキ人影
ノ如キ物出テ御長屋ノ軒ヲ飛行ス此時至
リテ風カハリ火シヅスル依之御屋鋪御焼亡
ヲ適給フ此圖兩ノ如キ物何ナル哉是ヲ見シ者
數多也余此夏ヲ御國ニ問ケレバ御領分彦根
ニ黒天狗神ト言アリ殿ノ御在列ニ隨テ奉守護
ナリト語ラレシ御名家ニハ不思儀ノ靈驗アリ
ト諸人申アヘリ

江都南驛松阪屋ノ主人名丸達トイヘリ源アリ
ツカサル時傾城ノ果ヲ妻ニス二年モ不遇ニ死ス此
丸達トイヘル者世俗通リ者通入賞ジ吉原町ナド
ニテ人ノ敬スル放蕩家ノ壹人也此時節ニ文魚
ナド言ル者仲間十八人有テ是ヲ十八大通ト言テ
黨ヲ結ビ金銀ヲ費スノ族也右丸達カ妻死テ
際ニ至テイヘラク我連モ名醫良藥ノ功モナク又
佛神ノ力ニモ不及時來リ節至テ命終ルハ天ノ
ナス列是非ナシ唯死ヲ待ノ外不可有雖僅也下
御縁有テ夫婦ト成シ夏一朝ノ儀ニ非ズル公死シ

テ別ル夏是又人間ノ常ニ知ズンハ不可有故ニ是
ヲ悔ルニ非ズ下併人ニ念ト申事アリテ死ル時ノ
大事ノ慎アリ我イカナル因果惡業ニ哉其元様ノ
夏而已ヲ思ヒ續ケ且ハ我等死太ノ後ハ後妻ヲ
迎ヘ可王フ此嫉妬心雲霧ノ如ク覆ヒ更ニ心不易
依之此苦念ヲ忘レ淨土白蓮ノ臺ニ座セン夏
ヲ願ヒ念珠ニ心ヲ止ントスレ共惡念不退妨ヲチ
シ牛頭馬頭ノ火責ニ墜ントス故ニ願ワクハ我若
念ヲ退ケ候様御教解下サレ安心往生ナサンメ
給ヘト面ヲ耻テ涙ヲ流シ依之尤建病者ニ向ヒイヘ
ラク右様ノ嫉妬心ヲ棄テ全快可爲様服藥ヲシ
佛神ヲ祈リ可申下併於人命ハ難斗リ謂哉
重病ノ夏ニ有之バトヘ其方死太ストモ於我後
妻ヲ迎ルノ心体無之依之雲霧ノ一念ヲ晴シ
月光ノ空ニ如ク向フガ更ニ惡念ヲ可止ル様我教
道ニ入テ一心ニ念佛ヲ可シ唱ト背ヲ撫テ教誡
セリ依之病者ノ念ハ後妻ヲ迎ン夏而已ニ嫉妬
心ヲ止ル所ノ外ナン尤達カ金言ニ因テ右ノ病者
完小トシテイヘラク其元様ノ御教導殊ニ御約
言ノ儀是ヲ黄泉ノ土産トシ易ク往生スベシ此

外思ヒ煩フ夏ナント其父部合掌シ世ヲ去
ケリ尤達不敏ニ雖思ト定業ノ至ル處於天命
ニ全方ナント尸ヲ原野ノ煙トナシ亡骨ハ一壺
内ニ匿シテサル寺院へ送葬シ一墳ノ主トシテ
自リ是ニテ尤達獨身トナリ三食薪水ノ業則
サレバ急困シ人ノ使僕ヲ置テ三食掃除賄
ヲ申付ケル此患ハ雖太ト亡妻ノ重病ニ因テ心
氣ヲ勞シ友來テ不夜城北遊ノ話ヲシ腮ヲ
外シ頭叩テ雖笑フト尤達更ニ不真心臆々トシ
テ不樂然ルニ光陰ニ袂ナク多テ止ル良不克亡
妻ノ小祥忌ニモ成ケレバ寺院ニ布施ヲシ家ニ僧ヲ
迎ヘテ近辺ノ老男女ヲ招飯ヲ進メ念佛供養シ
靈魂ヲ慰メ忌日ヲ營ケリ然ル所廟中ノ朋友等
尤達ガ鬱々シキヲ歎テ一女ノ笑成ルヲ後妻ニ可
迎ヨシ進ム尤達亡妻ニ約諾アレバ是ニ不進シテ
又半ノ年ヲ過ル此時三友來テ尤達ニ其故ヲ問フ
尤達始ノ程ハ押隠シ不言カ三友ノ問論ニ迫テ亡
妻ト約言セシ夏ヲ語り怨念崇リアン事ヲ
慮リ後妻ヲ不迎ノヨシヲ談ズ是ヲ聞テ三友子
尤達心氣後レタルヲ嗎リ愚也ト笑フ尤達未タ年

若カリケレバ三友子ノ嘲リヲ不忍且ハ老僕ノ食
ニ穢^{ケガレ}宴ヲ思ヒ後妻ヲ迎ント言依之三友子一女
ヲ尤^サ達ニ進メ後妻ニ定ム三友子是ヲ悅歸宿
ス然ルニ夜半ニ至リ夫婦寐^{イミ}ントスル時亡妻來テ
布團^{フダン}ニ座ス是怨靈也後妻驚怖シテ其夜ニ
親ノ家へ逃歸ル尤達不^ニ畏男子タル者怨念^{オン}ニ
意ヲ碎ン哉是非後妻ヲ入ズバ不置我名汚
ナリト其翌旦寺院へ參リ住持ニ面會シテ右ノ
首尾ヲ語リ御宗法ニ因テ取行ヒシニ怨念來リ
妨ヲナス良理合不^レ分宗門ノ功德於無ニ佛經塵
效ノ如シ故ニ怨靈退散ノ經ヲアケテ可給ルトナ
ジリケル住僧白仰尤ニ候寺役ノ儀ニ候得バ怨念
慎リ可申據御經讀誦致シ可進カル良^コ塔今
不^レ珍此靈ヲ宥ルニ施餓鬼ヲ致シ可遣ハサレ
施餓鬼科ハ七金トイヘリ左達ノ白仰裏候^サ併
出金ノ上右據怨靈不^レ退時ハ於我ニ思慮有之
候ノ間此段御談ジ申置候ト七金ヲ置テ歸宅
シタリ依之僧侶羣參シテ日數七月ノ間續經
シ怨靈退散ノ功ヲ顯ントスレ共更ニ成佛驗
ナク前ノ如ク怨ル顔色ニテ夜々座シテ左達ノ

傍ヲ不^サ去^{ラズ}果^ハ盆^{ハク}中^ニ如^ク此^ノ増^ワ長^ス妨^ケ雖^モ不^レ成^サト^レ盈^チ夜^ヤ眼^ニ遮^テ心^シ氣^キ勞^ツカレ^一身^イ瘦^ソ衰^ス病^ニテ^テ九^サ達^{ダツ}住^ジ僧^{ソウ}會^{ワフ}シ^テ怨^{オン}靈^{リヤウ}日^ニ夜^ニ増^ワ長^シケル^良ヲ^ヲ演^{エン}テ^レ迎^ム御^オ法^{ホウ}力^{リキ}ニ^テハ^ハ怨^{オン}念^{ネン}不^レ退^タ依^イ之^ヲ御^オ約^{ヤク}言^{ケン}ナ^レバ^バ我^ガ列^{リョク}存^{ゾン}ノ^ノ通^{ツウ}リ^リ可^キ致^シト^ト憤^{フン}色^{シキ}シ^テ問^{モン}責^{サツ}ニ^ニ及^ツ住^ジ侶^{リョ}ノ^ノ曰^{イフ}列^{リョク}存^{ゾン}ト^ト仰^{オウ}ラル^ル々^々事^ジ如^{ナニ}何^ニ玉^ツフ哉^{ナニ}ト^ト問^{モン}尋^{ジン}ス^ス九^サ達^{ダツ}答^{コタ}テ^テ余^ガ儀^ギニ^ニ非^ヒズ^ズ墳^{ツカ}ヲ^ヲ穿^{ウカ}亡^{バウ}骨^{コツ}ヲ^ヲ持^チ參^{サン}シ^シ我^ガ存^{ゾン}分^{ブン}ニ^ニ可^キ致^シ此^ノ段^{ダン}御^オ屈^{クツ}申^{マウ}也^{ナニ}ト^ト論^{ロン}談^{タン}ニ^ニ及^ツ住^ジ僧^{ソウ}白^{ハク}其^ノ儀^ギハ^ハ天^{テン}下^カ御^オ法^{ホウ}度^{タク}寺^ジ法^{ホフ}禁^{キン}誡^{タイ}不^レ罷^{マカリ}成^セ膝^{ヒザ}ヲ^ヲ叩^タテ^テ奮^{フン}言^{ゲン}ス^ス九^サ達^{ダツ}曰^{イフ}九^サ樣^{ヤウ}仰^{オウ}聞^{モン}ラル^ルナ^ラバ^バ以^テ法^{ホフ}德^{タク}ヲ^ヲ怨^{オン}靈^{リヤウ}退^{タイ}散^{サン}可^キ致^シ様^{ヤウ}ニナ^ナサ^サシメ^メ給^キ施^セ餓^ガ鬼^キト^ト号^{ガウ}シ^シ七^シ金^{キン}ヲ^ヲ取^ク置^チ一^{イチ}毛^{モウ}裡^リモ^モ其^ノ驗^{ケン}ナ^ナク^ク以^テ何^ニヲ^ヲ法^{ホフ}德^{タク}ト^ト言^{ゲン}以^テ何^ニヲ^ヲ我^ガ三^{サン}面^{メン}會^{ワイ}スル^ル哉^{ナニ}是^シ賊^{ソク}僧^{ソウ}也^{ナニ}オ^オソ^ソラ^ラク^ク此^ノ惡^{アク}罪^{ザイ}重^{チュウ}積^{シツ}シ^シテ^テ蒙^{モウ}佛^{ブツ}罰^{バツ}ヲ^ヲ坊^{ホフ}主^{シュ}首^{シュ}ヲ^ヲ飛^ヒサ^サシ^シ夏^カ近^{キン}ク^クニ^ニア^アリ^リ赤^{セキ}牛^{ギウ}ト^ト成^{セイ}テ^テ餓^ガ打^ダル^ルハ^ハ當^{タウ}住^ジノ^ノ族^{ソク}可^キ成^{セイ}イ^イヨ^ヨ々^々我^ガ存^{ゾン}念^{ネン}ヲ^ヲ妨^{ハフ}テ^テナ^ナサ^サバ^バ此^ノ段^{ダン}公^{コウ}訴^ソシ^シテ^テ亡^{バウ}骨^{コツ}ヲ^ヲ持^チ參^{サン}可^キ致^シ也^{ナニ}答^{コタ}テ^テ聞^{モン}ント^ト詈^{バシ}リ^リケル^ル然^{シテ}ル^ル處^{トコロ}墓^ボ參^{サン}ノ^ノ人^{ジン}有^{アル}テ^テ此^ノ關^{カン}論^{ロン}ヲ^ヲ聞^{モン}兼^{カン}住^ジ職^{シヨク}ヲ^ヲ宥^ユ九^サ達^{ダツ}ニ^ニ俛^{ヘイ}テ^テ歸^キラ^ラシ^シム^ム實^{ジツ}ニ^ニ九^サ達^{ダツ}當^{タウ}理^リ僧^{ソウ}ノ^ノ閑^{ヘイ}口^コ珍^{チン}說^{セツ}ノ^ノ問^{モン}論^{ロン}ト^ト可^キ言^{ゲン}然^{シテ}ル^ルニ^ニ

朱書

左達風雨烈シキ夜忍ビテ墳墓ヲ穿亡骨ヲ
 盜ミ迹ヲ匿シ持歸リ人不知骨ヲ碎細未シ
 テ旦暮服之ヲ凡日數廿日次房ニ靈慎リテ
 終ニ眼ニ不止トナシ左達心勇ニテクニ命ニ及バン
 怨念又ハ狐狸ノ類ヒ皆心氣ノ勞弱ヘ從テ一身
 ヲ涸ス又人心ノ億ニ因ハ其心氣ノ其身ヲ腦ス
 尤念ノ先良極メテアリ其證シイハ奉テ筭ヘ
 難シ鳥ノ將ニ死スル時其聲悲シ人ノ將ニ死ス
 ス時言良善ト宜ナル哉死スル時ノ覺悟不狼
 狽シテ決定往生スル良ヲ願フ人心ノ善トスル
 處佛說ノ教誡多シ爰ニ至テハ信用事賢愚
 ノ差別不可有尤左達か如キハ神國ノ日本魂トモ
 可言

淡庵子ノ碑王話曰成瀬年人正殿御重病ノ節
 日光 御宮ヲ并シ度旨ヲ仰出サル、依之老
 臣衆御重病ニテ御參詣ノ儀然ル不可ノヨシヲ
 諫止セリ因テ是ヲ止リ給ヒ我 神君ノ御命
 日ヲ相待死セン物ト曰ヒシニ不違其月十七日ニ
 御世去也然ルニ日光 御宮ヘ御參詣ナサレ

朱書

度ノ念日光へ御衆詣アリ是ヲ南光坊天海
僧正年人正殿ヲ見請給フ唯御一人御麻上
ニテ御衆詣アリシニ因テ年人正殿早御世
給フ夏ヲ僧正知リ給ヒ御悼ノ狀ヲ年人正殿
御屋敷へ送レケリト云是誠忠ノ念也前段
ノ念ハ邪念ナリ是ヲミヨ君子ノ正念如此

天海僧正ハ尊氏將軍七代法住院義澄ノ御子也爲天
性ニ凡身ニ非テ御齡不ハ後代慈眼大師ト贈号アリ

延喜帝ノ御時菅家時平公ノ讒ニ因テ筑紫へ
左遷セラル此御怨ニ因テ降水シ飢饉シテ天下ノ

万民患悲スル夏六年是全ク菅家ノ御憤怒

ニヨル列延喜八年六月廿六日清涼殿坤ノ方ノ柱ニ
霹靂シテ大納言清貫卿右中辨希世卿雷火ニ

因テ薨ズ菅公天ヲ祈リ給ヒ御怨雷神ト成テニ
クシト思フ者ヲ蹴殺シ時平公ニ異病ニ悩苦シ

テ是又薨シ給フ古書ニ顯レタリ大儒太宰純春
臺洛陽ノ閑隙カ記録ニ是菅公ノ御聖慮不成

ヲ歎ク菅公ノ御怨雷神トナリ主上ヲ奉養馬シ
カハ人々ヲ蹴殺シ万民塗炭ノ患苦ヲシロシ不

石ニオイテハ日本開闢ノ聖人トハ難敬全ク後世
ノ僻言土俗ノ説也ト兩儒書ニ挙タリ是等儒道

ノ本意可爲古書ハ佛説多シ信用シ難キノ
齟齬アリ比叡ノ阿闍梨法性坊カ桑代ヲ止メ靈
火ニ妻戸ヲ集シ加茂川ノ水湛テ阿闍梨カ車
ヲ遣ジト妨ヲシ給フ事ナド書中ニ明白也管家
及房ノ職ニ昇進シ給ヒ是ヲ及房狀元ト言智ニ
シテ學アリ賢戈ニシテ國家ノ政務ヲ兼天下ノ
内外ヲ司ルヲ言管家ニ道實公江家ニ匡房公
トテ世ニ聖賢ノ君子也管家ハ都良香ニ儒教
ヲ受師房ノ因筑紫ニテ薨ジ給ヒシヲ知ラルト
イハリ一説ニ管家ノ靈來テ都良香ニマシ給ヒシ
トアリ是等尤師ノ恩儀ヲ忘不給御世公ノ諱其
念止リ給ヒシ哉モ難斗是全ク信義也前段年人
正殿ニ均シ且ハ日藏上人死テ地獄へ陷延喜帝マ
ミヘシ時侯不徳ニシテ時平ノ讒ヲ信ジ無罪ノ管
家ヲ遠流セシ其罪廣大ニシテ閻王ノ憤怒因
テ呵責ヲ不適其苦患苦惱イハンカタナン故ニ其
方婆娑へ蘇生シ今帝へ奏シ之ヲ管家ヲ神ト
敬伏カ不徳ノ罪ヲ補ヒ天ノ怒ヲヤハラズ滅罪ア
ラン良ヲ願也ト蒙勅命ヲ依之日藏蘇生シテ
今帝へ奉奏之ヲ因テ天満大自在天神ノ尊号

ヲ贈^{カウチ}屬^チシ給フト云是台書ノ佛^{ブツ}說^{セツ}ヲ可知^ル日^{ニチ}
藏^{カウチ}地^チ獄^クへ墜^{ツキ}ルヨリシテ疑^ギシ延^{エン}喜^キ帝^{テイ}佛^{ブツ}道^{ダウ}ヲ信^{シン}
シ給ヒシヨリ此^{モウセツ}妄^ワ說^{セツ}アリシヤ又^ニ八^{ハチ}日^{ニチ}藏^{カウチ}ノ帝^{テイ}ヲマ
ドワシタル哉此^{モウセツ}浮^フ說^{セツ}於^ニ儒^{ジュ}道^{ダウ}ニ信^{シン}シ難^{ナン}シ菅^{クワン}家^ケノ
無^ム罪^{サイ}ニシテ左^サ迂^ユセラル^ル、又^ニ天^{テン}罰^{バツ}ニ因^ニテ暴^{バウ}惡^{アク}ノ
者^{モノ}ヲ亡^{コウ}シ降^{コウ}水^{スイ}飢^キ饉^{キン}シテ延^{エン}喜^キ帝^{テイ}ノ不^フ善^{ゼン}ヲ介^{ケイ}
シ給フト可知也時平公ノ耳^{ミミ}ヨリ青^{セウ}蛇^ゼ頭^{トウ}ヲ出^デシ怨^{オン}
ハ菅^{クワン}家^ケ御^{レイ}靈^{レイ}ノ崇^{ソウ}リナド、妄^{モウ}說^{セツ}ヲ書^{シヨ}セシ又^ニ見^ミニ
不^フ忍^{ニン}トルニ不足^スアル人^余二問^ニテ曰^ク菅^{クワン}家^ケ憤^{フン}怒^ノシ給ヒ
時平公及^{キヨツラ}ヒ清^{キヨ}賈^{ツラ}希^{マシ}世^ヨヲ亡^{コウ}シ降^{コウ}水^{スイ}飢^キ饉^{キン}セシ帝^キ
ヲ奉^{ホウ}恨^{コン}ケルノ證^{シヨク}アリ今天^{テン}并^{ヘイ}山^{サン}ハイカニ^余答^{コタ}テ曰^ク
菅^{クワン}公^{コウ}位^イ宦^{ケン}トモニ尊^{シヨク}ク職^{キョク}ハ及^キ身^ミ也故^ニ天^{テン}ヲ并^{ヘイ}スハ
不^フ珍^{チン}是^シ君^{クワン}子^コノ常^{ジョウ}也蜀^{シヨク}ノ卧^ワ龍^{リョウ}天^{テン}ヲ并^{ヘイ}ス是^シ畏^{オウ}天^{テン}
ヲ知^ル命^{メイ}ガ故^ニ也聖^{メイ}賢^{ケン}君^{クワン}子^コトイヘトモ又^ニ天^{テン}灾^{サイ}ハ不^フ道^{ダウ}
釋^{シヤク}尊^{ソウ}佛^{ブツ}德^{トク}ニ因^ニテ國^{クニ}ヲ治^チメ万^{マン}民^{ミン}ヲ撫^ブ育^{イク}シ給フ是^シ
ヲ妬^{ニョ}ミ提^{タイ}婆^バ佛^{ブツ}ヲウシナント佛^{ブツ}ノ溪^{ケイ}路^ロヲ過^カリ
給フ列^{リョク}ニ提^{タイ}婆^バ盤^{バン}石^{シヤク}ヲサシ^テ巖^{イワン}上^{ジョウ}ヨリ佛^{ブツ}ノ上^{ジョウ}へ投^{ナゲ}
付^{ツキ}タリ佛^{ブツ}躰^{リョク}微^ミ塵^{チン}ニナラントセシ時金^{キン}比^ヒ羅^ラ神^{シン}盤^{バン}石^{シヤク}
ヲ宙^{チウ}ニ引^{ヒツ}提^{タイ}外^{ガイ}へ屠^{ホフ}リ給フニ其^{ソノ}盤^{バン}石^{シヤク}ノ欠^ケ飛^{トビ}來^キテ
佛^{ブツ}ノ足^{ソク}ニ創^{キズ}ヲウケ給フ佛^{ブツ}命^{メイ}ハ全^{ケン}ウシ給フトイヘ

朱書

トモ矢ノ來テ創ヲウケラル、是是天災ノ難也
 大聖ノ佛祖ニテモ灾厄アリ、凡身ナリセバ、挫ン以
 之ヲ、天灾地妖ハ不可量リ、知ル因テ、菅公ノ御灾
 難ヲ可_レ知_ル今、大自在天神ノ御神德ニ因テ、諸
 厄難ヲ退シ、給ル、夏常盤ノ松ノ千歳ノ色ヲ
 増シ、千里ノ梅ノ芳キ神風ヤ、代々吹傳ヘテ、山城
 ノ國北野ノ聖廟ニ迹タレマシマス、夏可敬ス可
 尊ムト云

土佐國瀧本ノ神社ハ、菅公筑紫ニテ薨ジ、給ヒシヨリ、
 草創ノ地ニシテ、左神德ノ涼シキ、夏イナシルシ、依テ、近世
 國ノ守ヨリ、別而尊信シ、社殿矣ニシテ、眼ヲ輝ス、内裏ヲ
 御祈願列ニシテ、社務ノ位、臣北野同格也

近世江都赤城トイハル地ニ、川上ノ白寒少茶湯者
 ノ達人アリ、門葉多ク、諸侯ヘ召レ入、尊敬ス、秘育育
 ニ掛ル金數品ニシテ、不白茶ヲ味ル、夏分ニ過タ
 リ、茶ハ、脾胃ヲ潤シ、五臟ヲ雖損スト、不白九十有餘
 歳、追長壽ヲ保、万物トモニ信用スレバ、患ナントミヘ
 タリ、茶ノ湯ハ、源貴賤ノ隔ナク、厚交成ニテ、書トス
 且ハ器物ヲ扱フニ至テ、麁忽ナシ、以テ茶ノ湯ノ德
 スベシ、雖然リト、町人百姓ノ翫フ物ニ非ズ、貴人ニ可
 限ル、百姓町人此道ニ入テ、身家滅亡セシ者、數人ニ
 及ブ、太田元貞モ是ヲ誠止セリ、尤其道理ニ叶ヒテ

元貞か儻ノ賢ナルヲ賞スニ至ル是聖賢ニテ
メル驕奢ヨリ起レリ依之

神君御茶ノ湯

ノ豆ヲ不聞奢ヲ捨檢素ヲ守リ給フが故也尤
御心得アリシ事ハ殿下秀吉公茶道ヲ專ミ
給ヒシニ因テ茶ノ湯御饗應ノ事ナド書ニ見
雖然リト御心腹ニ茶ノ湯御信用無之豆ニ哉
御一派ニテ茶ノ湯アラセシ豆ヲ不伺尤余が不學
ノ列ニ哉御記録ニ不見諺ニ言ル上ヲ学下トカ
奢侈ヲ誠メ檢約ヲ表トシ給ル謂ナシ殿下ニ
奉用シ給フ此一事ニ因テ万端ノ過笑ナルヲシル
ベシ千ノ利休小堀遠列又ハ織部正ナド此道ノ名
譽皆殿下ノ寵多

神君ト奢檢馬角ノ

爲相違豆ヲ可知茶器ノ價誰極ルトモナク廣大
ニ及ブリ利休宗易か泪ノ茶抄ハ價千金トイヘリ利
休自害ノ節削リシト言右体不吉ノ品ヲ世ニ重寶
トスル豆何ノ益アリ哉小堀遠列モ家滅ス皆奢ニ
墜テ諸人ヲ導ク是全ク聖賢教誡ニ背クが故也
尤名譽ヲナスハ人徳ノ至ル列奢檢ノ二道ニ不拘依
之天下ノ万民

神君ノ御武徳ヲ敬シ且御

檢素ニシテ國ヲ治メ四海ヲ撫育シ給ヒシ其御恩

朱書

徳ヲシル者ハ万端奢侈ニ墜入不可笑ヲ母ム徒ハ
身家滅亡スル事疑不可有今川氏實蹴鞠ハ
名譽ヲ雖顯ト於武畧ニハ感賞少シ是奢ニシ
テ家滅ス和漢是ヲ舉ルニイトマ非ズ

余ガ父ノ知ル人海川へ出テ殺生ヲ母ム事數年アル時
鉤ニ出ケルニ不漁ニシテ海蛇トイハル物蝦ニカル夏數
度ニ及ブ此變物鱶ノ如クニシテ首尾蛇ニ均シ右
毒アリテ食ス夏不克邂逅漁士ノ網ニカル時難
アリトテ是ヲ不吉トセリ海中妖孽ノ臭ナリト

イヘリ然ルニ右ノ漁客海蛇ヲトスヘ庖丁ニ首ヲ劔テ
捨テリ船人ノ言ハ我數年大洋ヲ雖緣ト今日
如キ海蛇ノカリシ事ヲ不知是水神ノ祟リアラ
ン夏ヲ余シ給フ所可成因テ等ヲ揚系ヲ失テ
歸ラン夏ヲ談ズ漁客其意ニ隨テ歸宅ス然
ニ四五日ヲ過テ又漁舟ヲ雇ヒ波濤ニアソブ又不漁也
漁客進メテ舟ヲ廻メ場處ヲカユル然ル所過目切
捨タル海蛇ノ首漁客ガ釣鉤ヲ啞テ上ル眼先
カ如シ漁客怖テ等ヲ棄舟士ニ早ク船ヲ戻サ
ント言船士ノイハク是只夏不成ト鱧ヲ押丹情

朱書

シテ歸ラントスル時地^モ薄^モニテ暗夜ノ如ク暴風
起テ^{デキ}逆浪^{ウツ}天ヲ湛^{ヒシス}ス依^{キヨ}之^{カク}渙客^{セドツ}船士ノ二人命^{ゴツ}没^ツシ
尸^{カハチ}ハ^{キヨ}魚腹^{フク}ニ葬^{サウ}セラレシ^{ウツカヒ}良^{ウツカヒ}疑^ヒ不可有^{モトリ}因^{モトリ}テ佛神
ノ冥^{メウ}慮^{リヨ}ニ^ジ命^{メイ}助^{サシ}ラン^ノ外^{ガイ}ナシト^{カン}髻^{モトリ}告^ツヲ押切^{オシキリ}祈^{キチン}念^ン
ス全^{カン}ク佛神ノ救^{キウ}ヒ給^{キョウ}ヒシニヤ海^{カイ}岬^{カン}ニ^{キヨ}船^{フネ}ヲヨスル依^{キヨ}
之^{カン}二人岬^{カン}上^{セウ}ハ^{カン}這^{カン}登^{カン}リ佛神ヲ九^{キウ}拜^{ハイ}ス此^キ處^コ何^{ナニ}列^{リツ}マ
ト思^{オモ}フニ房^{フウ}總^{サウ}ノ間^{カン}也^{ナリ}因^ナテ二人難^{ナニ}船^{セン}ノヨシヲ渙^{キヨ}村^{ソン}
長^{チサ}談^ニシ^テ怪^ケ我^ガナケレバ送^{オウ}リ^ニ船^{フネ}ヲシテ歸^キリシ^ニ良^{ウツ}ヲ
得^エシト云^{イフ}云^{イフ}改^{セツ}ニ^{セウ}殺^{セウ}生^{セイ}家^カ業^{ギヤウ}ハ不知^{シラ}遊^{ユウ}渙^{リヨウ}ノ殺^{セツ}生^{セイ}可^カ
止^トル^コ良^コ古^コ語^ゴノ誠^{マコト}ヲ^コ侵^{カス}不可^{カス}
屯國濱浦ノ土俗只海蛇上而巳喝テ其
實ヲ不知余是ヲ雖穿ト不并後君子
知テ之ヲ神助テ給ル

寛政ノ比力士谷風^{カゼ}梶^カ之助^ノ東都^{トウ}深川^{シン}八幡^{ハチ}於^ニ境^{キョウ}内^ニ
勸^{カン}進^{シン}角^{カク}力^{リキ}興^{キョウ}行^{コウ}アリ谷風^{カゼ}土^ツ俵^{ヒヤウ}入^ニノ^ノ蒔^{マキ}アヤマチテ見^ミ
物^{モノ}人^{ヒト}ノ足^{タラシ}ヲ踏^{フミ}ケリ其^{ソノ}會^エ釈^{シヤク}モナク過^スシニアル時^{トキ}用^{ヨウ}
向^{ムク}有^{アル}テ^テ船^{フネ}ヲ雇^{カウ}ヒケリ供^ス相^マ撲^{マフ}ハ^ハ船^{フネ}宿^{シュク}ヨリ歸^キシ
艫^カヲ押^{オシ}セ出^デ船^{フネ}ス然^{シカ}ルニ^ニ船^{フネ}士^シ刈^{サキ}崎^{サキ}ノ沖^{ナギサ}ノ方^{カタ}へ^ニ船^{フネ}ヲ
マ^コワシ^コ漕^{ソウ}行^{コウ}ケル谷風^{カゼ}思^{オモ}ヘラク此^{コノ}方^{カタ}へ^ニ舩^{フナ}ヲ振^{フリ}ル^ニ良^{ウツ}
不^フ心得^{コト}ト此^{コノ}ヨシヲ問^ト依^ヨ之^ノ船^{フネ}士^シ艫^カヲ休^{ユス}メ申^{マウ}様^{ヤウ}ニ
其^{ソノ}元^{ゲン}先^{セン}日^{ニチ}八幡^{ハチ}ノ^ニ必^{カナラ}場^{バウ}列^{リツ}ニ我^ガ足^{タラシ}ヲ踏^{フミ}タリ其^{ソノ}痛^{イタシ}
難^{ナニ}忍^{ニギ}トイヘトモ^ニ於^ニ場^{バウ}處^コ難^{ナニ}之^ノヲハ我^ガ天下^{テン}ノ力^{リキ}士^シ
不^フ及^キ依^ヨ之^ノ心^{ココロ}外^{ガイ}ヲコラ^ニ時^{トキ}蒔^{マキ}來^キバ意^イ糧^{リョウ}ヲ散^{サン}セント
四番

朱書

セシニ天ナル哉今面會スル良我存念ノ至ル列
 也因テ我ヲ殺セ我又汝ヲ不生於陸ニハ汝不
 及水上ニテハ我又不屈早ク勝負ヲワカシメト舳
 ニ突ニ谷風ノ憤怒腰刀ニ手ヲ掛ナバ舳ヨリ飛
 込舩ヲ震渡ント身構ヘシタリ谷風是ヲ聞テ色
 ヲ失ヒ舩板ニ伏テ曰其元ノ腹ニ於場列ニ儀ハ
 サラニ不心附左右俤ノ家業故物良投ヤリニテ不
 辨ノ至リ向後可心附ノ間腹ニノ程了簡可給
 ト傾首平身シテ侘多リ船士ノイハラク尤様言ルニ
 我強テ命ヲ果スニ不至其元ハ今天下ニ雙者ノ
 無之大切ノ身命也源右様ノ良奢心シテ慢スル
 ヨリ人ヲ侮ル我今其元ノ侘ヲ不聞入舩ヲ震渡ナ
 バイカン天下各譽ノカストイヘトモ身命塵芥ノ如ク
 ナラン故ニ以後無作法不成様可致サレト憤意
 ヲオサメ舩ヲマハシ艫ヲ押テ谷風が約言ノ場列
 迫漕著ワカレケルト云谷風生涯危急難ハ
 是也ト語リシ

東都兩國ニ異名ヲ河童庄五郎ト言舩士アリ年
 若カリシ時夏雨中ニ我舩ニ登寐シテ居タリシニ

朱書

跟^{キヒス}ヲ櫟^{スツグル}モノアリ眼覺^サテ起ントセシニ兩足ヲ舁^{フナ}縁
 ニアケテ居シニ因テ足ヲ引ントスル時體離^{ハナレ}レ水中
 へ落^オタリ庄五郎心剛^{シンカウ}ノ者故^ユ是河童^{カウハ}可成ト余^{サツ}シ
 一身ヲ其變物^{ヘンブツ}マカセ水底^{スイテイ}へ沉流^{チンリウ}ス然ルニ水底ノ
 沉中ニ變物庄五郎ヲ押^{オシ}ヘ糞穴^{フンアナ}へ首ヲ入^コ五臟六
 腑ヲ喰^フハントスルニ庄五郎變物ノ咽^{ノド}ヲカニ任セテ
 トス居ケレバ變物水中ニテハ力量^{リキリヤク}雖有^{モトモ}ト咽ヲ
 押^{オシ}ヘラレケルニ因テ振放^{ハナ}ントシテ庄五郎が體ヲナス
 依^ヨ之庄五郎カヲ得押^{オシ}ヘガ^ラ變物ノ咽^{ノド}へ喰^フヒ付不
 放^{ハナ}因テ此働^{ハシラキ}ニ僻易^{ヘキエキ}シヨワル處ヲ犢鼻禪^{トクヒ}ヲ以
 咽^{ノド}ヲシメ付ケル依^ヨ之死ス庄五郎犢鼻禪ノハシヲ
 身ニ失^シシ以水鍊^{スイレン}ヲ浮^{ウキ}近邊ノ舁^{フナ}ヲヨフ舁士共皆
 寄^ヨテ庄五郎ヲ舁中へ助^タケ上^ウル庄五郎變物ニ身
 ヲ破^ヤラレシ數不知^カ而彼變^カヲ揚^{アゲ}テ見^ミルニ形沉龜^{カシマスツ}
 ノ如ク大サ三尺ニ余リ凡ハ鷺^ワニ似^ニタリ見^ミ之者驚^{オドロク}
 怖^フセスト言^{イハ}夏ナシ庄五郎勇ナレバ命全ス因^ユテ人
 其剛成^{ガウ}ルヲ賞^{セウ}ジ河童庄五郎ト呼^ヨフ卑賤^{ヒセン}ノ者
 ニスコシク剛成^{ガウ}ヲ奉^ヨ答^{コタ}スベシ

余^カシル人駭^{オドロク}河屋喜右衛門水邊ニ隱宅ヲ構^カヘ入^イ

ノ僕ヲ遣ヒ開成ルヲ樂シムアル夏熱暑ノ夜羣
螢家ニ入テ屋壁ヲ照シ燭ヲ採ニ不及偏二寅天
ノ星光戰フニ似タリ彼貧窓ノ漢人螢火ノ輝光
ニ書讀セシモ宜ナル哉ト夜ノ過ルモ不知肘ヲ曲
テ枕トシ心陰々トシテ居ケル列二三歳程ノ小兒
歩行來リ庭欄ノ上ニ手ヲ掛喜右衛門ヲ見テ完
介トス喜右衛門思ヘラク此深夜ニ人モ不添小兒
ノ來ル豈疑ト起上リ一棒ヲ取テ小兒ノ面前ハサ
シ出シ是誠ニ小兒棒ノ先ヲトス引ニ其力量唯
良不成因テ變化ナルヲシリ打殺ントスルニ棒ヲ
不放源本喜右衛門ハ力量諸人ニ勝レ拔君手力者
ナリシガ彼變化ノ小兒二體ヲ引レ棒ヲ採良不能
口惜キ事ヲ思ヒ己變化棒ニテハ我力不及トイ
ドモ日比持慰タル以盤石ヲ微塵ニセント鳴リケ
レバ變化此勇言ニヤ怖ケン棒ヲ捨水中へ飛入シ
トナン是狐狸ニ非ズ河童ナラン前段庄五郎退
治セシハ沉龜ニ似タリ是ニ至テハ手足異ニシテ
棒ヲトルノ自由不可成オソクハ此種類アラン此怪
ヨリシテ喜右衛門病生ジテ終ニ死ス是是等良
ヲ慮レバ水邊閑地モ毎ム二珍ナシ

東都牛筋龍船河原トイヘル列ニ雨中ノ夜ハ河童出
テ童女ヲ怖スト言説專ナリケル二近邊ノ釵術者
聞之ヲアル夜雨ノ寂キ長月ノ未此龍河原ヘ至アハ
レ變化出ヨカシト腰刀ニ反ウツテ眼ヲクグリケルニ
後ノ方ニ足音シケレバ振返リ見タル處ニ十歳ガカリ
ノ小僧竹笠冠リ袖ヲ結テ後ニ付歩行來ル依之
彼釵術者は評スル列ノ河童也我ヲナブラントスルノ
不届眼物見セント一刀ニ斬付ル小僧只一声シテ伏
倒ス因テ彼士町内番屋ヘ上リ此晝夜々變化出テ
此近邊ヲ怖スヨシ因テ我今夜其變化ヲ仕止メ

リ町役ノ者三會見分可有之ヨシヲ言テ勇慢
ノ体也町役ノ者寄合士ノ河童ヲ仕止メ迎我々
三會ニモ及不可下併彼士狼狽者ニテ人ヲ斬害セ
シ哉難斗因テ番屋ニ士ヲ止置一應見分可致
ト内談シテ士ノ言ニ任セ其場列ニ至リミルニ童
竹笠ヲ切割レ頬先ヨリ右ノ肩ヘ掛四五寸ノ創也
未タ不死メ朱ニ成テ伏居タリ提燈ニテ是ヲミル
ニ近邊ノ塗師が家ノ調市也依之騷動ニ及ビ主
人方ヘ此段ヲ通ジ療治ノ手當ヲシテ番屋ニ正
不歸主人ヨリ御檢使ヲ相願可申トセシニ創

朱書

療治相力ナヒ命ニ不及ノヨシニテ扱人ニ入内齋ニ
成ケル小童竹笠ニ白釵ヲ支シニ因テ命ヲ全
ス士ノ耻辱後代ニ嘲ヲ残ス武門ノ家瑾聞人
抱腹セズト言支ナシ偏ニ可笑ノ至リ也

○備前少將彦御退隱ノ節御近臣何某非番
日勤番長屋へ落雷シケリ彼士一刃ニ雷戰ノ首ヲ
打落ス其象赤犬ノ如ク爪ハ釵ニ似テ牙ハ狼ニ均シ
キ慘獸也此取汝汰御屋敷ニ滿テ出入町人ニ至ル
迄此説ヲセサルト喜支ナシ因テ此評ノミニシテ
勇ナリト君平賞シテ不止依之少將公ノ御耳ニ入
シ御尋モ無之處無而御心勇ノ更ハ未々者モ
知之バ御側ノ同勤衆ヨリ彼カ勇也ト申上ニ前
予モ此程ノ風説存シ居處也我思フ旨アレハ是
へ呼出シ可申ト仰アリ因テ諸士ノ評ニ御褒笑
アラン更ヲ呶然ルニ彼士ヲ召出サレ其方先日
落雷ノ節雷獸トヤランヲ仕止シヨシ專ラ風説
アリイヨ々其儀ニ相違無之哉ノ旨問尋シ給
フ士御答ニ相違旨ヲ言上ス少將公仰ニ其方
ハ狼撰者也予ナリセバ生捕ナリ其方心狼ニ驚

怖セシニ因テ白^{ハク}劔ヲタノミ^ニ斬^キシ者ナラン歟ナ
レバコソヨシ盜賊アルヒハ狼藉者ナド斬害^{ザンガイ}及
テハ^ハ言^{イハ}ニテ吟味^{キンミ}不明白也依之其方^フ億
セシヲ知ル右俸ノ不心得^フ予ガ側ニ差置^{サシヲク}更^マ他
家批判如何也且ハ將軍家ヲ守護^{シユヅク}ノ勅
役國司大名ノ家臣ニ狼狽^{ウロシエ}者ヲ差置^{サシヲク}時ハ變
更^マノ節万人ノ誹謗^{ヒバウ}ヲ不適^{ノカレズ}家ノ耻辱^{チクヨク}守身^{シユン}名
汚^{ナレ}也是上ヘ不忠ト可言因テ以來江都^{カド}勃
番罷不成早々岡山へ歸國可有旨仰渡^{マカリ}凡
彼士ハ申ニ不及諸臣皆思慮^{シヨ}ニ相違^リシテアリ

臣忝武心ニ長セル家臣ハ少將公ノ真武ヲシ
リ御明意御勇銳ヲ敬ス少將公ナドノ御心
得是ニテ社武門ノ御名譽ト可言以此段ヲ
近來於國司ニ御英物トイハシ北條安房守殿
アル時將軍家於御前ニ言戰御物語
ノ節當代備前少將晴政ナド戰亂ノ代ノ
氣アル者ニシテ今變アル時ハ御馬前ノ御用
ニ可相立國司ハ晴政ニ可止ル因テ亂國ノ世ノ
人氣勇ナルヲシロシ召ルベシト言上セシ更^マ有
トタル士ノ夜話セラレシ

○俳優ノ藝人六代目白猿太八富家ノ主人ト
茶ノ湯ノ友ニシテ交厚ナリシニ其家ノ嫡子イセシ私
ソキテアラヌ事ヲ詈リキヤワカワ狂操ス父母金銀ヲ不惜
佛神ニ加持祈禱シ心願ヲコムトイヘトモ其驗
サラニナシ然ルニアル人ノ曰右様ノ古コ私ハ僧侶ソウリョニ
山伏ノ類ニテハ墜マシ勇ナル人ニ責サセナバ
怖テ退散スベシト諾リケレバ父ナル者思ヒ
當ル事有テ尤モ可有トテ白猿ガ方ヘ參
御存ノ通愚嫡ウツ古コ私ノ多クニ命終シトス依之
年比ノ母ニ何卒貴列古コ私ヲ墜シ可給ル哉
余更ニテモ無之貴列先年矢ノ根五郎ノ狂
言ヲ致サレシ時鄙生是ヲ知レリ誠ニ勇ナ
ル更諸人賞シ感ズ因テ何卒右矢ノ根五郎
ニ出立給コ私ヲ白眼可給ル雖狂言ト其勇
相ニ驚怖シ古コ私可墜也偏ニ頼入候物入等
ハ厭不申ト思入テ頼ケル白猿聞之ヲ我等
サシウ藝道ニ不染年老テ舞臺ニ氣モク
シケ中々勇成ル藝ハ思ニ不仕依之此儀ハ御
用捨可給ルトコトハリケル右ノ主人ノ曰鄙生ガ當
難患困スルヲ於棄給フニ以後旧友ノ母モ是

限り絶交也ト面ヲ變ジ恨ケル白猿ノ白九迫
ニ仰ラレ、良久ナムハ我等家業ノ薄情ト言レ
ン是又口惜キ夏也御頼ノ儀果知致候ト答
主人面ヲ和シ大ニ歡歸リ座敷ノ奥ニ床ヲ組
上障子ノ用意シテ下座唯ハ白猿ニ任セ此始
未ヲ古狐ニ不知セ其用意調ケルニ因テ狐屬
ヲ床ノ前ニ引居下座唯ヲ始ルニ古狐興ニ允
哉屬モノ主完介トシ由断成ル列上障子ヲ揚
ケレハ白猿狐屬ヲ礮ト白眼ケレバワツト言テ悶
絶シ古狐退散シテ穴竊ル良久數日はヨリ心魂ノ
勞ヲ補ヒ身衰ノ療治シテ命ヲ全ウス偏ニ
白猿ノ藝術ニ因テ畜類ノタメニ身命ヲ不捨
此時白猿ノ語リケルハ我貴家ヘ參ルハ世ノ暇
乞ト存候若哉古狐ノ不退ノ時ハ御子息ヲ
刺殺シ自害シテ果ント懷釵用意シタリシ
ニ運命不尺ニ人共ニ身易ウスル良久目出度ト
語リケルト云 白猿表ハ童子ノ戯ナレ共衷
ハ武心ノ勇壯ト可言諸道皆以名譽ノ人ハ
其徳ナキニシモ非ズ妄説ニ似タレ共信用スベキ
ノ列アレハ拳之二

朱書

正徳ノ頃備中ノ國ニ老楓住テ人民ヲ苦ムル此老楓
 金毛九尾ニ方ラス變獸也一旦千里ヲ走リ通力
 自在成ケリアル時薩摩ノ國ヘ往行セシニ不動院
 トイヘル社地ニ入僧ト變ジ不動院ヲ窺院ノ別當
 神地ニ變化身ノ物入シヲ知テ白紙ニ咒文ヲ書テ
 門戸ノ口々ニ張セケル是神咒ニシテ縛スルノ法ナリ
 諸神ノ眷屬出口々ヲ守護シケレバ變身此地ニ石
 ト成ル共退ントスル更不克然ルニ不動院ノ別當大
 子ヲ腋挾征矢ヲ携ヘ變化ニ向ヒ己恠獸神地ヲ
 穢シ我ヲナグランドスルノ不屈國民ノ愁ナレハ矢先ニ
 カケテ退治スル也ト大子ニ征矢ヲ番ヒ満月ノ如
 ク引シボリ既ニ切テ放ントス然ルニ變狐地ニ伏テ
 落涙シイテラク我思慮ナク尊地ヲ穢シ更災
 列也右不屈トアリテ御失先ニ我命ヲトリ給フニ
 オイテハ猶又御法衣ノ御穢ト可成也我誤リ御
 聞齋多サレ御免シ於前之ニ以後惡心ヲ止リ早速
 御國ヲ退去可仕因テ一命ノ程下シオカレ候様下
 蹲踞テ平身ス院主ノ白多トヘ法衣ノ穢ト成共國ノ
 タメ入ノタメナレバ畜類ニ不限入身成共矢先ニカケ
 ン更何ノ天罰ヤアラン汝カ重惡從是心ヲアフクメ

國ヲ退去スルニオイテ、我アテ汝ヲ害セン哉、後
ハ我教導ニ允心シ、國民ノ妨ケヲスルニオイテ、汝
通カアレバ、我又法道ノ術アリ、汝ニ劣ン哉、千里ヲ
隔ツ共是ヲ知テ、汝ヲ退治スル、豈我法術ニアリ
因テ禁誡ノ言ヲ可守ト教化シ給フ、此不動院ト
イヘルハ、志戸津ノ大守ノ御續血ニテ生シ、凡不成文
武、戈量ニマシマシ、殊ニ武術ハ万人ノ上ヲ越智勇備
リ、御先代義弘ノ勇ニ似給フト、諸臣等尊敬シテ
ルニ不圖武門ノ道ヲ思ヒ棄サセ給ヒ、法衣ノ身トナ
ラン、豈ヲ思ヒ三御家ヲ離レ、此不動院ヲ嗣給ヒケ

ルヨシ、薩列一國ノ社地ナリ、領主ヨリモ御社領ヲ
附屬セラレ、國民尊敬スル、豈大方不成然ルニ、院主
老松ニ問尋アラルハ、汝凡何年ヲ過ル哉、是迄諸
國ヲ變廻セシ内、驚怖セシ、豈アリシヤト問セラ
ル、變松答テサン候、昔右府頼朝卿不ニ御將ノ
節山中ノ岩穴ニ住居致候、列天下將軍ノ御
持殊ニ和田畠山ヲ始、日本ノ勇士羣衆參シテ
雖野鼠ト退ル、豈不能因テ跡生ハ、編蝠ト化
テ弓鋒ヲ遁、御陣營ヲ太タリ、其夜卒士ニ
變シ、諸陣ノ笑ナルヲ見ント、陣間ヲ過ルノ節

曾我兄弟父ノ讎工藤祐經ヲ討ノ時五席致宗
我變化身成ルヲ知テ哉傍ニニテ我ヲ白眼其
勇相一身ノ毛穴冷水ヲ洒ルニ均シク心朦朧
トシテ體疲四足不動唯此陣頭ニ命ヲ棄ル
夏ト存候列我ヲ不斬行過ラレタリ致宗タ
讎ヲ報ノ時ナレバ我變身命ヲ遁タリサナク
五郎ニ白眼殺サレンイマタ其憤喫ノ勇相ヲ
思ヘバ一身毛立ニテ怖シ是ナン今迄ノ驚膽
ト可申也且ハ今日君ノ御法力ニ因テハ凡七百
余年ノ間ニ只此二度ニ止リ候ト語リシ院主此

老狐ガ物語ニ因テ五郎ノ無雙ナル勇威ヲシ
ルト賞讃シ給フ雖獸畜ト數百年ヲ勝越
スレバ人身ノ不及列變術不輒雖然リト人間
智ハ量リ難シ獸畜神變ノ術アリ共終ニ人
カノ智畧勇銳ニ因テ亡フ故ニ人身野狐藪
裡ノ變物ニ襲レ又ハ獸子ニサル、夏皆以一心ノ
怠リ智勇ノ衰氣ヲ奪ルガ故也博士白夜
陰又ハ山野ノ寂シキヲ過ル時開口ニテ物ニ心氣
ヲウツス不可智匿レ勇衰フ故ニ狐狸ノ變ニ逢ト
言レシ是ヲ慮ハ益縁亡狐狸ニ均シ

朱書

江府品川東海寺中興ノ祖澤庵禪師ハ昔
 年此方ノ禪門ノ智識ト聞ヘシ秀玄ニシテ悟
 道勝レ博學ニシテ戒行ヲ保チ法話論議ハ
 節モ唇ヲ賜シ雖受誠ト禪杖ヲ授ル僧澤
 庵ノ右リニ出ル者ナシ依之 御三代公禪道
 ノ大悟ヲ余シ參ラセ宗門一孤ノ名譽タリ爰
 ニ三百年ヲ越タル老楓アリテ澤庵戒行ヲ妨ン
 トスルニ大悟ノ凡僧ナラ子バ其透カリ心氣ヲ蕩
 夏不克アル時澤庵一節切トイヘル尺ハヲ吹テ心
 氣此音ニ奪レ浮操シテ悟道ノ透可有ト

尺ハヲ奪標テ屠ケレバ澤庵不驚其座ニ卧
 テ見向モヤラズ斂シテ寐多シ老楓此悟道感
 服シテ發心シ惡行ヲ止リ澤庵ノ禪行ヲ慕
 善心ニ還テ一社ノ禿舎ヲ列望ニ及因テ禪師
 於境内ニ稻荷ヲ勸請シ老楓ヲ祀今ニ其社
 アリカル歟畜師ノ大悟ヲ感善道ニ導シハ法行
 ノ規模可爲老楓惡行方リ國民ノ禍トナラ
 金毛九尾可均近世武列八王子ニ此稻荷ヲ遷
 神祭有テ諸人尊信スト言正二位豊王ノ神ト
 敬ケルヨシ其地ノ人余ニ語リン

朱書

寛政ノ頃興歌ノ撰者四方ノ赤良六樹園飯盛
ヲ始羣會シテ化物百首ヲ戲詠セント太列
ノ下屋敷ヲ借テ此一興ヲ催夜ノセノ刻ト定メ
闇燈ニ燈心百筋ヲ照シ一人毎ニミテ文臺ノ探是
ヲ採テ郎考ノ戲詠ス此借家常ハ種々ノ雜具
ヲ入置雨中ニ犬ノ床ト成リ千草繁茂シテ軒
ヲ叩瓦壁ニ月落テ星降瘦柱四方ニ曲倒シテ
寂々タリ羣衆雅入笑バ家動眠ハ草風袂ヲ
誘燈ハ家ノ奥ニ有テ間十七八間雅子入宛ミテ
燈心ヲ減ス然ルニ百筋目ニ的シ者怪アリ驚

怖シテ其場ヲ逃羣會ノ雅子同ク太然ルニ其
變物ヲ見止ント燭ヲ採テ窺ニ古キ椀櫛簾シ
燥ニミミレル也蜘蛛ノ糸ヲ拂手ニ取テ皆可笑
ス雖然ト是乃怪也戲慰ノ遊興ナガラ百人目ニ
的テ簾ノ落テ驚膽セシムルハ可怪ト言後右ノ
狂詠櫻木ニホセ變物百首ノ冊子トス此序文ヲ
六樹園ノ文作セリ兒童ノ夜話ニ雖似タリト言諺
ヲ不可捨ノヨシ筆誠ス禁ヲ破古老ノ教ヲ嘲
者ハ我患ヲ求ルノ猷子トヤ言シ



